

Ⅳ 調 査 結 果

Ergebnisse der Untersuchungen

1. 植 生 単 位 Vegetationseinheiten

海老名市の相模川河川敷、沖積低地および洪積台地で植生調査された結果、29群集、22群落として2つの植林の合計53の植生単位があきらかにされた。植生単位は自然植生と代償植生に区分され、さらに森林、低木林および草原に細区分されまとめられている。

a. 自 然 植 生 Natürliche Vegetation

1) 森 林 Wälder

(1) イノデータブノキ群集

Polysticho-Perseetum thunbergii Suz.-Tok. 1652 (Tab. 3)

i) 相観・組成

タブノキの優占する常緑広葉樹林で高さ30m近くになる。群落の階層は草本層、低木層、高木第2層、高木第1層の4層からなる。高木第1層にエノキ、ムクノキ、ケヤキなどニレ科の夏緑広葉樹を混生することもある。高木第2層は9～15mの高さで、10～80%の植被率を占める。シロダモ、ヤブツバキ、ヤブニッケイが個体数多く生育している。低木層は2.5～4mの高さで、30～60%の植被率を占める。優占種はアオキで、他にシュロ、タブノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなどの常緑広葉樹、エノキ、ムクノキなどの夏緑広葉樹がわずかに混生する。草本層は50～80cmの高さで、20～50%の植被率を占めている。優占種はキチジョウソウで他にヤブラン、カブダチジャノヒゲ、ナガバジャノヒゲ、ナキリスゲ、ビナンカズラなどが良く出現している。群集を特徴づける標徴種と区分種には、キチジョウソウ、エノキ、ムクノキがあげられる。活力の高いタブノキ、シロダモ、ヤブニッケイはクスノキ科の常緑広葉樹で、液果*をもち、適潤な林床でも腐敗しにくく活着率が高い。イノデータブノキ群集では、他にもアオキ、エノキ、ムクノキなどが液果で、鳥に食され、種子散布の行われる植物が多い。

ii) 生育地・分布

イノデータブノキ群集は土壌が深く適潤な立地を指標する。海老名市では河原口、今里、中野など自然堤防後背部の低地、上今泉から本郷にかけた段丘斜面、また本郷の上谷津、下谷津にみられるような、小河川によって開析された谷状斜面が生育域となる。今日では残存する植分が少なく、河原口の宗珪寺、中新田の海源寺、中野の八幡（海老名市自然緑地保全区域第42号）、本

* 肉質で水分含有の多い果皮をもつ果実。



Fig. 5 農家の屋敷林として残されたイノデータブノキ群集（本郷）。
Ein Polysticho-Perseetum thunbergii als Hofwald (Hongo).

郷（海老名市自然緑地保存樹木第21号），上今泉の段丘斜面（海老名市自然緑地保全区域第63号）などがその主なものである。

iii) 遷移ほか

イノデータブノキ群集は遷移の最後に終局相を形成する自然植生である。伐採が行なわれると二次遷移*が進行することになる。最初に出現する1年生草本植物群落は、ベニバナボロギク・ダントボロギク群集で、移動能力の高い風散布植物が多い。主な構成種にはベニバナボロギク、ダントボロギク、ヒメムカシヨモギ、ノゲシ、アキノノゲシ、オニタビラコなどがある。次の段階に出現する多年生草本植物群落には、アキノノゲシ・カナムグラ群集、アズマネザサ・ススキ群集などがある。さらにつる植物、低木類を主要構成種としたセンニンソウ群集、先駆性亜高木林のクサギ・アカメガシワ群落、次にクマワラビー・イスシデ群落、ミズキ群落などの夏緑広葉樹林に遷移し、最終的にイノデータブノキ群集が復元される。

iv) 人とのかかわりあい

鎮守の森などに聖域的として保存されるほか、段丘斜面では、防災も兼ねた修景的な緑地となる。常緑広葉樹で構成された多層群落で、防災林としての機能が強く、環境保全林に適している。

v) 自然保護

海老名市で終極相を形成する自然植生のひとつで学術的価値が高く、しかも残存植分が少ないため、きわめて貴重である。海老名市の自然緑地として指定されている植分もある。今後は現状

の保護はもとより、学校、公園、工場などの周囲に積極的にイノデタブノキ群集を基礎として境界環境保全林を形成していくことが望まれる。

(2) シラカン群集

Quercetum myrsinaefoliae Miyawaki 1967 (Tab. 3)

i) 相観・組成

シラカンの優占する常緑広葉樹林で高さ30m近くになる。高木第1層には適潤地でケヤキが混生している。乾性立地で針葉樹のモミを混生する植分はみられない。高木第2層は8～13mの高さで、20～40%の植被率を占めている。よく出現する種には、シラカン、ヒサカキ、ヤブツバキがある。低木層は2～6mの高さで、20～60%の植被率を占めている。優占し、しかもよく出現する種には、ヒサカキがある。他にもアオキ、ヤツデ、モチノキ、ネズミモチ、ツルグミ、チャノキ、シュロが普通にみられる。草本層は20～120cmの高さで、10～70%の植被率を占めている。シラカンの実生が多く、他にも、キヅタ、ヤブラン、カブダチジャノヒゲ、ヤブコウジ、マンリョウ、ベニシダ、テイカカズラが出現している。人手がはいる、荒れた林床ではテイカカズラが優占しやすい。



Fig. 6 斜面に帯状に残されているシラカン群集 (産川台)。

Das *Quercetum myrsinaefoliae* an einem Terrassenkliff (Sankawadai).

* 伐採、火災、台風などの破壊跡地から始まる遷移で、すでに土壌の形成があり、埋土種子も存在している。

海老名市に分布するシラカシ群集はシラカシ、ヒサカキ、ツルグミ、マンリョウ、ナンテン、シュンランを標徴種および区分種としている。

構成種のシラカシ、アカガシ、アラカシは俗にドングリとよばれる堅果をもち、乾燥した立地での発芽に適している。

ii) 生育地・分布

カシ林域とよばれる関東地方でも内陸側に分布域がある。乾燥、冬季の低温に比較的強く、火山灰土の厚く堆積した立地を指標する。海老名市域では、北部の洪積台地上に分布する。残存す



Fig. 7 シラカシ群集の林内（産川台）。

Inneres des *Quercetum myrsinaefoliae* (Sankawadai).

る植分は、少なく、社寺林、農家の屋敷林として残されている。海老名市産川台、上今泉（自然緑地保全区域第59号）の段丘斜面、望地、大久保などで植生調査資料が得られている。

iii) 遷移ほか

洪積台地上に気候的終局相を形成している。植分が破壊されると1年生草本植物群落→多年生草本植物群落→つる・低木群落→亜高木林→高木林と遷移が進行する。シラカン群集の一段階前の遷移途上に出現するクスギーコナラ群集（夏緑広葉樹二次林）には、すでに多くのシラカンの幼木をみとめることができる。常緑であるシラカン群集の構成種が増加すると、比較的陽地生であるクスギーコナラ群集の構成種は光条件に対して劣性となり、陽樹林から陰樹林へと遷移する。人為的な10～20年ごとの伐採により、クスギ、コナラ、ヤマザクラなど、萌芽性の強いクスギーコナラ群集の主要構成種が持続的に生育し、持続群落を形成する。

iv) 人とのかかわりあい

安定した生態系を維持する終局的な自然植生のひとつで、農家の屋敷林として保全されることが多い。シラカン自体も剪定しやすい常緑の高木種で高垣に利用される。

v) 自然保護

関東地方の気候的極相群落の中でもっとも広い成立面積を占めているが、残存植分が少なく保護を必要としている。関東地方の田園景観を特徴づける主要な植物群落であり、景観上も保護されるべきである。

(3) イロハモミジ・ケヤキ群集

Aceri-Zelkovetum Miyawaki et Fujiwara 1970 (Tab. 3)

i) 相観・組成

高木第1層にケヤキが優占し、常緑広葉樹のタブノキ、常緑針葉樹のカヤを混生しやすい。高木第2層は高さ11～14mで、30～40%の植被率を占めている。よく出現する種には夏緑広葉樹のイロハモミジ、常緑広葉樹のシロダモ、タブノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、アカガシがある。低木層は3～4mの高さで、60～70%の植被率を占める。優占種はアオキで、他にヤツデ、ネズミモチ、ヤブニッケイ、シュロが出現している。草本層は20～100cmの高さで、10～30%の植被率を占めている。優占種はなく、キヅタ、ヤブラン、カブダチジャノヒゲ、ベニンダ、クマワラビ、オモトがよくみられる。

イロハモミジ・ケヤキ群集はイロハモミジ、カヤを標徴種および区分種として海老名市域に認められた。

ii) 生育地・分布

溪谷部の不安定な急斜面に土地的極相林として成立するため、ぼう軟な土壌は形成されにくい。典型的な植分では母岩の露出、崩積土のみられることが多い。海老名市の植分は県道杉久保座間線に沿った段丘斜面に限られて発達し、比較的ち密な火山灰土壌上に成立している。

iii) 遷移ほか

イロハモミジ・ケヤキ群集が破壊されると草本植物群落からクズ、センニンソウ、エビヅル、トコロ、ヤマノイモなどのつる植物、キブシ、ヤマグワ、ニワトコ、メダケなどの低木類の繁茂したブッシュが形成されやすい。さらに遷移をへた段階ではクマワラビー・イヌシデ群落、ミズキ群落などの夏緑広葉樹二次林が形成される。

iv) 人とのかかわりあい

土地利用のしにくい急斜面に成立するため、そのまま防災林として残されやすい。しかし構成種のケヤキは有用樹木となるため、択伐されることが多い。

v) 自然保護

海老名市におけるイロハモミジ・ケヤキ群集の生育域は、段丘斜面の一部に限られ、面積的に狭い。常緑広葉樹林域でイロハモミジ、ケヤキなど紅葉の美しい夏緑広葉樹が相観的にもめだち、観賞的な効果も大きい。また防災上も土砂崩壊に対して保全効果があり、保護されるのが望ましい。

(4) ムクノキ・エノキ群集

Aphanantho-Celtidetum sinensis Ohno 1979 (Tab. 4)

i) 相観・組成

ムクノキ、エノキ、ケヤキなどニレ科の夏緑広葉樹が高木第1層に優占する森林植生。植生調査された植分の高木第2層は12～15mで、20～30%の植被率を占めている。構成種は高木第1層に共通するほか、シロダモ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、アカガシなどがみられる。低木層は3～4mの高さで、20～70%の植被率を占めている。優占種はアオキで、他にハナイカダ、ムラサキシキブ、コクサギ、マユミなどの夏緑広葉樹とビナンカズラ、ヤツデ、シロダモ、イヌガヤ、シュロなどの常緑広葉樹が混生している。草本層は50cmの高さで、30～60%の植被率を占めている。優占種はユリ科のキチジョウソウで、他にもカブダチジャノヒゲ、ナガバジャノヒゲ、オオバジャノヒゲ、オモト、クマワラビ、テイカカズラ、キヅタ、イワガネゼンマイ、ヤマヤブソテツ、ヤブミョウガ、ヒカゲワラビ、アオイスマレ、オオハナワラビ、イノデ、トウゴクシダ、イヌワラビ、ミゾシダなどシダ植物がとくにめだちみられる。

海老名市域ではムクノキ、エノキ、コクサギ、オオハナワラビなどを標徴種および区分種としてムクノキ・エノキ群集にまとめられた。

ムクノキ・エノキ群集には夏緑性の植物が多く、春季には春植物とよばれる地中植物の出現が予想される。イチリンソウ、ニリンソウ、ムラサキケマン、ジロボウエンゴサク、ヤマブキソウなどは代表的な春植物である。

ii) 生育地・分布

沖積低地とやとに面した斜面下部の多湿な立地を指標している。土壌の多湿性はイノデータブ

ノキ群集より高く、ハンノキ林より低い。残存植分はきわめて少なく、上今泉で段丘斜面に接した沖積低地上に断片的植分を認めている。ほかに参考的に得られた植生調査資料は綾瀬市の沖積低地上の屋敷林である。

iii) 遷移ほか

残存自然植分が少なく、遷移に関する直接的資料は少ない。海老名市の沖積低地上の湿田の多くがムクノキエノキ群集の成立域に相当することから、放棄水田の進行遷多を参考にした。ムクノキエノキ群集が破壊されると多湿性の草本植物群落（一部、オギ、ヨシ草原も含まれる）が形成され、次にコクサギ、ニワトコ、ミツバウツギ、マユミ、コウゾなど伴生する低木群落、そしてミズキ、クマノミズキ、先駆的にエノキの混生した夏緑亜高木林に遷移すると判定される。

iv) 人とのかかわりあい

ムクノキエノキ群集の成立する地域は平担で、多湿な沖積低地が多く、古くから水田地帯として開墾されてきた。今日では地下水位が高く、水資源が比較的豊富なため、工場誘致も積極的に行われている。

v) 自然保護

ムクノキエノキ群集の残存植分が少ないだけに保護は必要であるが、むしろこの立地は水田耕作にもっとも適しており、現況のままの土地利用形態を景観的に保全するのが望ましい。

2) 低木林 Gebüsch

(5) タチヤナギ群集

Salicetum subfragilis Okuda 1978 (Tab. 5)

i) 相観・組成

カワヤナギ、オノエヤナギ、タチヤナギ、イヌコリヤナギの混生した夏緑広葉樹低木林。ヤナギ類の幹枝は下流方向によく分枝し、匍匐斜上している。相模川沿いで得られた植分は高さが3～4mで、タチヤナギ、オノエヤナギが優占している。草本層は1～1.2mの高さで、60～90%の植被率を占めている。優占種はクサヨシ、ミゾソバで、他にヨシ、カモジグサ、ヨモギ、イヌビエ、スギナ、サンカクイ、ノイバラ、ウシハコベなど湿地性でしかも好窒素の草本植物が多い。

タチヤナギ群集はタチヤナギを標徴種、オノエヤナギ、カワヤナギ、イヌコリヤナギを区分種として海老名市域で判定された。

ii) 生育地・分布

流水辺の粘質土の堆積した富養な立地に生育する。増水時には頻繁に冠水する。相模川沿いは河川の中流域から下流域に分布域があり、現存植分は門沢橋の戸沢橋周辺に多くみられる。

iii) 遷移ほか

流水あるいは人為的に破壊されると好窒素性草本植物群落が代償植生を形成する。富栄養な泥土にはスズメノテッポウタガラシ群集、ナガノギンギンギンギン群集、ヨシ群落、流水によ

Tab. 5 タチヤナギ群集
Salicetum subfragilis

Laufende Nr.:	通し番号	1	2	3
Feld-Nr.:	調査番号	E	E	E
Datum d. Aufnahme:	調査年月日	143 '84	145 '84	148 '84
		11	11	11
		14	14	14
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	20	16	25
Höhe über Meer (m):	海拔高度	9	9	9
Exposition:	方位	-	-	-
Neigung (°):	傾斜	L	L	L
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ	3	3	4
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層の植被率	80	90	80
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ	1.0	1.0	1.2
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層の植被率	90	60	60
Artenzahl:	出現種数	11	13	17

Kenn- u. Trennarten d. Ass.: 群集標徴種・区分種

Salix sachalinensis	オノエヤナギ	S	1.1	4.4	2.2
		K	.	+	.
Salix subfragilis	タチヤナギ	S	3.4	2.3	4.4
Salix gilgiana	カワヤナギ	S	3.3	2.2	+
Salix integra	イヌコリヤナギ	S	.	.	1.2
<u>Begleiter:</u>		随伴種			
Polygonum thunbergii	ミゾソバ	K	5.5	1.2	+2
Phalaris arundinacea	クサヨシ	K	1.1	3.4	3.3
Echinochloa crus-galli	イヌヒ" I	K	+	+2	.
Phragmites australis	ヨシ	K	1.2	.	1.2
Agropyron kamoji	カモジグサ	K	1.2	.	1.2
Rosa multiflora	ノイバラ	S,K	.	+	+
Artemisia princeps	ヨモギ	K	.	+2	+2

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr.1 : Scirpus triqueter サンカタイ
K-1.1, Equisetum arvense スギナ K-+2, Miscanthus sacchariflorus オギ K-+2,
in 2 : Erigeron sumatrensis オオアレチノギク K-+2, Commelina communis ツユクサ
K-+2, Mentha arvensis var. piperascens ハッカ K-+2, Setaria faberi
アキノエノコログサ K-+, Chenopodium album シロザ K-+, in 3 : Stellaria aquatica
ウシハコベ K-1.2, Kalimeris yomena ヨメナ K-+2, Solanum nigrum イヌホオズキ K-+2,
Rorippa indica イヌガラシ K-+2, Galium trachyspermum ヨツバムグラ K-+2, Torilis
japonica ヤブジラミ K-+, Bidens frondosa アメリカセンダングサ K-+.

り礫の露出した立地ではマルバヤハズソウ-カワラノギク群集がみられる。

タチヤナギ群集も流水の影響下に持続的に成立する自然植生で、流水の影響が弱まれば高木のヤナギ林に遷移が進行する。

iv) 人とのかかわりあい

護岸工事、車の乗り入れなどによって植分の破壊が進んでいる。

v) 自然保護

タチヤナギ群集には流水を一時的に貯水する効果があり、水の浄化にも役だつ。また他の動植物の生息、生育場所となり、植生の保護により河川の生態系を維持できる。

3) 草 原 Wiesen

(6) スズメノテッポウ-タガラシ群集

Alopecuro-Ranunculetum scelerati Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 6)



Fig. 8 富栄養な流水辺に発達するスズメノテッポウタガラシ群集（鳩川河口）。

Das *Alopecuro-Ranunculetum scelerati* entwickelt sich an dem eutrophierten Bach entlang (Flußmündung von Hatogawa).

i) 相観・組成

1～2年生植物のタガラシ（キンポウゲ科）が優占する。構成種の多くは短期1年生植物でカワジシャ、スカンタゴボウ、アメリカセンダングサなどがみられる。群落の最盛期は4～6月の春季で、流水辺とナガハギンギシーギンギン群集にはさまれて帯状の植分を形成する。

海老名市域ではタガラシを標徴種、スカンタゴボウ、カワジシャ、アメリカセンダングサを区分種にスズメノテッポウタガラシ群集にまとめられた。

ii) 生育地・分布

スズメノテッポウタガラシ群集は流水によってもたらされた富栄養な泥土上に成立し、流水辺にみられることが多い。立地は多湿で0～5 cm の水深がある。

分布は相模川流域で、とくに横須賀水道の交差する鳩川との合流付近に多い。鳩川では生活排水による汚染が進み、富養化した流水が流れこむためと考えられる。

スズメノテッポウタガラシ群集はまた、湿田に春季雑草群落として代償植生を発達させることもある。

iii) 遷移ほか

スズメノテッポウタガラシ群集は流水の上下変動があり、新鮮な運搬土の堆積しやすい立地に自然植生を発達させる。流水の影響が弱まると多年生のナガハギンギシーギンギン群集に遷移



Fig. 9 富栄養な流水辺に生育するナガハギンギシーギンギン群集（鳩川河口）。
Dem Lauf des eutrophierten Baches folgt das *Rumicetum crispo-japonici*
(Flußmündung der Hatogawa).

する。

春季の耕起前の湿田は環境が流水辺と似た状態にあり、スズメノテッポウタガラシ群集が代償的に出現する。しかしその後、耕起、湛水が行われるため、夏季水田雑草群落であるウリカワ一コナギ群集に偏向遷移*する。

iv) 人とのかかわりあい

スズメノテッポウタガラシ群集は富栄養化した流水辺の指標群落となる。したがって人為的な汚染（過窒素化）の進んだ河川では生育域が拡大する方向にある。相模川に流れこむ小河川の合流付近に出現する植分が多く。鳩川はその良い例である。

v) 自然保護

生育面積は拡大する方向にあり、特別に保護は必要としない。

（7） ナガハギンギシーギンギン群集

Rumicetum crispo-japonici Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 7)

i) 相観・組成

タデ科のギンギン属の優占が相観の特徴となるが、海老名市域では帰化植物のネズミムギが優

* 自然の状態で進行する群落の遷移が、人間による環境の変化によって別な群落に遷移すること。

占種となっている。他にヤハズエンドウ、カモジグサ、ウシハコベ、カキドオシ、ヤエムグラなどが伴生している。イネ科のネズミムギ、ホソムギ、カモジグサは冬緑性であるため、冬季もみどりの状態にある。春季は越年性植物の展開が早く、群落の最盛期をむかえる。

海老名市域ではナガハギシギシ、ギシギシ、エソノギシギシ、ネズミムギ、ヤエムグラ、ミドリハコベを標徴種および区分種としてナガハギシギシーギシギシ群集にまとめられている。

ii) 生育地・分布

河川による富養化した運搬泥土の堆積した多湿な立地に生育する。冠水するのは増水時だけである。隣接した群落には流水辺側でスズメノテッポウタガラシ群集、自然堤防側で、ヨシ群落、オギ群集がみられる。

主な分布は相模川河川敷であるが、小河川沿いの土手にも帯状に発達する。

iii) 遷移ほか

増水時の冠水という物理的破壊作用によって遷移が進まず、持続する自然植生である。したがって流水の影響が弱まれば、ヤナギ低木林から高木林へと遷移が進行する。

iv) 人とのかわりあい

スズメノテッポウタガラシ群集と同様に、河川の富養化を指標する植物群落となる。代償植生として水田の畦や灌漑用水路沿いに出現することも多い。

v) 自然保護

環境汚染の指標群落として重要であるが、とくに保護は必要としない。

(8) マルバヤハズソウーカワラノギク群集

Kummerovio-Asteretum kantoensis Miyawaki et Okuda 1672 (Tab. 8)

i) 相観・組成

1年生草本植物と多年生草本植物が混生する。1年生植物にはマルバヤハズソウ、マメグンバイナズナ、コセンダングサ、ナギナタガヤ、ムラサキエノコログサなどがある。多年生植物にはカワラノギク、カワラハハコ、カワラヨモギなど河原に特徴的なキク科植物がみられる。カワラヨモギ、カワラハハコは団塊をつくるため、特異な相観となる。植生調査された植分ではコケ層が発達し、スナゴケが40%の植被率を占めていた。

海老名市域ではカワラハハコ、カワラヨモギ、カワラノギク、マルバヤハズソウ、ナギナタガヤを標徴種および区分種にマルバヤハズソウーカワラノギク群集にまとめられた。

ii) 生育地・分布

比較的冠水しにくい河川の高敷に成立する。生育地は粘質土も多く、砂礫質土壌からなる。透水性が良く晴天が続くと強い乾燥状態におかれる。

相模川沿いでは下今泉から河原口にかけた上流域で植分の発達がみられた。

iii) 遷移ほか

流水による極端な破壊を受けると、裸地にまで退行する。植生の復元過程ではマルバヤハズソウ、ナギナタガヤ、ムラサキエノコロなど1年生草本植物が最初に侵入してくる。立地が安定するとヤナギの実生の活着率も高く、ドクウツギ、アキグミなどとともに散生した低木林を形成する。これらの低木林はまだ海老名市域では確認されていない。

iv) 人とのかわりあい

マルバヤハズソウ・カワラノギク群集は帰化植物の多いナガハギシギシーギシギシ群集と異なり、水のきれいな日本の急流河川に独自に発達してきたとおもわれる。今日では、人による河川の汚染によって、生育地がせばめられ、逆にエゾノギシギシーギシギシ群集が広がりつつある。

v) 自然保護

カワラと名のついた河川に生育域の限られる植物が多く、保護を必要とする。車、オートバイの乗り入れによる直接的破壊と河川の汚染からくる富栄養化による間接的破壊を避けることが必要である。

(9) ヨシ群落

Phragmites australis-Gesellschaft (Tab. 9)

i) 相観・組成

高茎な多年生草本植物のヨシが優占する。他にセリ、スギナ、クサヨシなどが生育している。海老名市域ではヨシ1種でヨシ群落に区分されている。

ii) 生育地・分布

流速がゆるやかで泥土の堆積した立地。水深に幅があり、冠水しない立地でも生育が可能である。

相模川の中野より南に普通にみられる。沖積低地、小水系沿いの水田放棄地に発達するヨシ群落は代償植生で、相模川沿いの自然植生と比較して組成的な差は認められない。

iii) 遷移ほか

相模川沿いの自然植生は流水の影響下に持続群落を形成している。水田放棄地の植分はウリカワ・コナギ群集からアゼガヤツリー・カワラスガナ群集、ミゾソバ群集などを経て遷移した植分が多く、今後も放棄が続けば、ハンノキ、エノキ、ムクノキ林の湿生林に遷移が進行する。

iv) 人とのかわりあい

河川のヨシ群落の多くは、かつてはアシ原として茅葺やその他の材料に利用されていた。水田も放棄が長くなるとヨシ草原となり、土中はヨシの地下走out枝ではりめぐらされる。こうなると再び開墾するのに多大な労力を必要とする。

v) 自然保護

河川のヨシ草原はヨシキリ、カモなどの生息地となる。また、水質浄化などにも役立つため、現状のまま保護するのが望ましい。

(10) ツルヨシ群集

Phragmitetum japonicum Minamikawa 1963 (Tab. 9)

i) 相観・組成

ツルヨシが優占し、群集標徴種となる多年生草本植物群落。植生高は100cmに満たず、出現種数は10種以下と少ない。

ii) 生育地・分布

急流辺。砂礫河原の相模川。まれ。

iii) 遷移ほか

流水辺に持続群落を形成している。流水により破壊されると裸地化する。

iv) 自然保護

水の汚れの少ない急流河川に指標的な植生である。富栄養化の進む相模川ではめずらしく、ヨシ群落の最前部に成立している。

(11) オギ群集

Miscanthetum sacchariflori Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 9)

i) 相観・組成

高茎な多年生草本植物のオギが優占する。

他にもクサヨシ、カモジグサ、ツユクサ、ヨモギ、オオブタクサ、カナムグラなどが多数混生している。

海老名市域ではオギ1種を標徴種にオギ群集にまとめられた。オギは発達した再生能力の強い根茎をもち、洪水による土砂堆積に適応した生育形となっている。

ii) 生育地・分布

ナガハギンギンギンギン群集、ヨシ群落の生育地よりさらに冠水頻度の少ない乾燥した立地に成立する。

相模川沿いの中野から門沢橋にかけて植分が良くみられる。戸沢橋付近の畑放棄地ではオギ群集が代償植生として発達している。

iii) 遷移ほか

流水の影響下に持続する自然植生で、畑放棄地にみられる代償植生は終局的にムクノキーエノキ群集かイノデタブノキ群集に遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

河川敷の氾濫原に成立しているオギもかつてはカヤ場に利用されることが多かった。ヨシ群落と同様に今日では、人とのかかわりあいも少ない。

v) 自然保護

鳥類や他の小動物の生息地として保護されるのが好ましい。

b. 代 償 植 生 Ersatzgesellschaften

1) 森 林 Wälder

(12) クヌギーコナラ群集

Quercetum acutissimo-serratae Miyawaki et al. 1967 (Tab. 10)

i) 相観・組成

雑木林とよばれ、萌芽形態をとる夏緑広葉樹二次林。高木第1層は12～20mの高さで、70～90%の植被率を占めている。優占種はコナラで、他にクヌギ、クリ、ヤマザクラ、イヌシデ、エゴノキなどが混生する。高木第2層は7～11mの高さで、5～40%の植被率を占めている。構成種は高木第1層と共通なほか、フジ、クマシデ、スギなどが生育する。低木層は2～4mの高さで、20～80%の植被率を占めている。優占種は陽地生のアズマネザサで、他にもマユミ、コゴメウツギ、ウグイスカグラ、ノイバラ、サンショウ、ガマズミ、ムラサキシキブ、ヤマコウバシなど種類数が多い。草本層は20～170cmの高さで、10～90%の植被率を占めている。優占種はアズマネザサで、他にコウヤボウキ、イヌワラビ、ナルコユリ、イヌツゲ、ヤマユリ、ホンモンジスゲ、ヤブラン、キヅタ、カブダチジャノヒゲ、アマチャヅル、シロヨメナなど夏緑・常緑の植物が混生している。



Fig. 10 15～20年ごとに伐採され、萌芽状態のクヌギーコナラ群集（上今泉）。

Alle 15 bis 20 Jahren wird das *Quercetum acutissimo-serratae* genutzt und schlägt dann aus dem Stock aus (Kamiimaizumi).

海老名市域ではクスギ、コナラ、ヤマコウバシ、ヒカゲスゲ、キンラン、ヤマノイモなどを標微種および区分種としてクスギーコナラ群集にまとめられている。海老名市では、その他にもイヌシデ林、ミズキ林、クマノミズキ林などの雑木林が数少なく植生調査されている。

ii) 生育地・分布

クスギーコナラ群集は火山灰土壌の深い適潤な立地に成立し、関東一円の洪積台地上を主な分布域としている。

海老名市では上今泉、滝ノ木、宮台、蓮谷など、主に北部の丘陵斜面に点在して残されている。

iii) 遷移ほか

クスギーコナラ群集はシラカン群集の代償植生として、15～20年毎の伐採により持続している。かつては春季の下草刈り、落葉かきによる堆肥づくりで林床が管理され、アズマネザサが優占し、シラカン、ヒサカキ、アオキなど終局群落の常緑の構成種の生育は少なかった。海老名市域でもクスギーコナラ群集からシラカン群集に遷移が進んだ植分が多くみうけられる。

iv) 人とのかかわりあい

かつては木炭の原料をとるために重要な役割を果たし、かつ堆肥づくり、山菜とりなど多目的に利用されていた。今日では、シイタケの原木に利用されるほか、目立った利用法がなく、伐採されて造成されてしまうことが多い。海老名市でも洪積台地に多くの新興住宅地はクスギーコナラ林が造成されたものである。

v) 自然保護

森林植生の少ない海老名市でクスギーコナラ群集はその割合の多くを占めている。しかし今日、都市化により急速に面積をせばめている。クスギーコナラ群集を公園緑地として積極的に都市景観内にとりいれ、保護していくことが必要である。

(13) クマワラビーイヌシデ群落

Dryopteris lacera-Carpinus tschonoskii-Gesellschaft (Tab. 10)

i) 相観・組成

イヌシデが高木層に優占する夏緑広葉樹二次林。高木第1層、第2層にエゴノキ、ハリギリ、ムクノキが混生する。低木層にはアズマネザサが優占し、ほかにもガマズミ、ムラサキシキブ、ヤマウコギ、ヤブニッケイ、タブノキ、アオキなどが混生している。草本層は貧弱で、ケチヂミザサ、ヤブガラシ、キツタ、イヌツゲなどが散生している。

クマワラビーイヌシデ群落はヤブニッケイ、クマワラビで区分されている。

ii) 生育地・分布

丘陵斜面下部の適潤な立地に生育する。海老名市では分布もまれで、南部の本宿から植生調査資料が得られている。

iii) 遷移ほか

イノデータブノキ群集、シラカン群集の代償植生として発達する。

iv) 人とのかかわりあい

優占種のイヌシデも伐採により萌芽する、いわゆる雑木林のひとつである。炭焼き、シイタケ栽培の原木にはクスギ、コナラほど利用価値はない。

v) 自然保護

急速に姿を消している雑木林で、現状の緑地は保護していくのがよい。

(14) クマノミズキ群落

Cornus brachypoda-Gesellschaft (Tab. 10)

i) 相観・組成

高木層にクマノミズキ、エゴノキ、ネムノキの混生した夏緑広葉樹二次林。低木層、草本層にはノイバラ、メダケ、アケビ、スイカズラ、ミツバアケビ、アマチャヅルなど林縁性のつる、低木植物が多い。

ii) 生育地・分布

谷戸の斜面下部から低地の湿潤な立地。星谷、本郷など南部の丘陵に分布する。

iii) 遷移ほか

比較的先駆性の強い代償植生で、遷移が進めばイノデータブノキ群集やムクノキーエノキ群集の湿生林に遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

畑の放棄、植林の伐採後に出現する。

v) 自然保護

とくになし。

(15) ミズキ群落

Cornus controversa-Gesellschaft (Tab. 10)

i) 相観・組成

ミズキの優占する夏緑広葉樹二次林。低木層以下にマユミ、エノキ、ゴンズイ、ムクノキ、ガマズミ、アズマネザサ、トコロ、キヅタ、ヒカゲイノコズチ、ヌスビトハギ、ミズヒキ、ビナンカズラなどがみられる。植生調査された植分では林床にコチヂミザサが優占していた。

ii) 生育地・分布

斜面下部の湿潤な立地で、日当たりの悪い北斜面に広がりやすい。分布は星谷で1カ所植生調査されただけである。

iii) 遷移ほか

クマノミズキ群落と似た環境条件下にあり、先駆的な陽樹木である。遷移が進めばムクノキー



Fig. 11 先駆的に発達したミズキ群落（星谷）。

Ein Pionier-Bestand der *Cornus controversa*-Gesellschaft (Hoshiya).

エノキ群集，イロハモミジ・ケヤキ群集，イノデ・タブノキ群集になる。

iv) 人とのかかわりあい

谷戸の畑地が放棄されることによって出現している。

v) 自然保護

とくになし。

(16) スギ・ヒノキ植林

Cryptomeria japonica, *Chamaecyparis obtusa*-Forsten (Tab. 11)

i) 相観・組成

常緑針葉樹の有用樹木であるスギ，ヒノキの植栽された植分。手入れの良い植分では，高木第2層以下の植被率が低い。高木第2層にはシラカシ，シロダモ，タブノキ，ムクノキなど，低木層にはマユミ，エノキ，アオキ，ヒサカキ，ヤブニッケイ，草本層にはキヅタ，シュロ，ヤブラン，イヌワラビ，カブダチジャノヒゲ，ヤブコウジ，シオデ，アケビ，スイカズラなどが生育している。

ii) 生育地・分布

水はけの良い丘陵斜面に植栽される。海老名市では沖積低地に接した段丘斜面，小河川によって開析された斜面，社寺の周囲などに小面積で植栽されている。

iii) 遷移ほか

管理の良い植分では、林縁部よりアケビ、スイカズラ、ヤマグワなど陽地性の植物が侵入、生育しているが、管理が粗放になると、耐陰性の常緑の植物が増えてくる。

iv) 人とのかかわりあい

スギ、ヒノキは降水量の多い地域の貧養な岩角地に土地的に自生している種である。気候的・土的な条件に恵まれた地域では、スギ、ヒノキより競争力のある種が多数自生しており、人間が管理しないと植栽されたスギ、ヒノキは良好に生長しない。主な管理は下草刈り、間引き、下枝払いなどである。

v) 自然保護

戦後、日本の林業では天然林の伐採、人工林化が強力におしすすめられてきた。主な植栽木はスギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツで、スギの占める割合がもっとも高い。海老名市域でもクスギーコナラ群集について面積の広いのはスギ、ヒノキ植林である。その多くの植分は管理が不十分であり、シラカシ群集、イノデータブノキ群集の構成種が復元しつつある。徐々にスギ、ヒノキを択伐し、常緑広葉樹林に遷移させるのも、積極的なみどりの利用法である。

(17) モウソウチク林

Phyllostachys heterocycla f. pubescens-Bestand (Tab. 12)

i) 相観・組成

植栽されたモウソウチクの優占する常緑の森林植生。下草刈りなど管理の良い植分では、低木層、草本層の植被率が低い。低木層には、シュロ、シロダモ、アオキ、ヤブツバキ、シラカシ、タブノキなど自然植生の構成種が多く出現している。草本層にはヤブラン、オモト、ヤブコウジ、テイカカズラ、ナガバジャノヒゲなどの常緑植物、トコロ、ドクダミ、アケビ、ムラサキケマン、アマチャヅル、イヌワラビなどの夏緑植物がみられる。

植栽種のモウソウチクは中国原産で、1746年（江戸時代）に食料、建材用としてわが国にもちこまれたとされている。

ii) 生育地・分布

モウソウチクは土壌の深い適潤な立地で生長が良く、根茎が地中を張りめぐらし土留めの役割を果たすことから、農家の裏山によく植栽される。海老名市でもモウソウチク林のみられるのは農家の裏、社寺の囲りといった田園地帯に限られている。

iii) 遷移ほか

モウソウチク林は下草刈り、施肥などの人為的管理によって持続し、管理が粗放になると、自然植生の常緑広葉樹林の構成種が侵入し、遷移が進行する。

iv) 人とのかかわりあい

モウソウチクは防災、建材、食料など多目的利用のために植栽され、田園景観を特徴づける景



Fig. 12 植栽された中国原産のモウソウチク林（星谷）。

Gepflanzter Bestand von *Phyllostachys heterocycla* f. *pubescens*; die Pflanze stammt aus China (Hoshiya).

観要素のひとつである。

v) 自然保護

スギ、ヒノキ植林と同じ人工林であるが、植物相が豊かなこと、また景観保全上からも現状を維持して保護するのが好ましい。

2) 低木林 Gebüsch

(18) クサギーアカメガシワ群落

Clerodendron trichotomum-*Mallotus japonicus*-Gesellschaft (Tab. 13)

i) 相観・組成

アカメガシワ、ヌルデ、クサギ、カラスザンショウ、ヤマハゼなど陽地生夏緑広葉樹の混生する亜高木・低木林。低木層にも陽地生の生駆性種が多く、カミエビ、クマヤナギ、ミツバアケビ、アケビ、ヤマノイモ、スイカズラ、フジなどのつる植物やヤマグワ、タラノキ、コウゾ、エノキなどの低木類が生育している。草本層も林縁生、草原生植物が多く、ススキ、シラヤマギク、ヒヨドリバナ、ハエドクソウ、サルトリイバラ、アズマネザサなどがみられる。

海老名市域ではアカメガシワ、クサギ、ヌルデを区分種にクサギーアカメガシワ群落にまとめ

Tab. 13 クサギ—アカメガシワ群落
Clerodendron trichotomum-Mallotus japonicus-Gesellschaft

Laufende Nr.:	通し番号	1	2
Feld-Nr.:	調査番号	EG	EG
Datum d. Aufnahme:	調査年月日	1 178	83 '85
		8	7
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	26	21
Höhe über Meer (m):	海拔高度	150	20
Exposition:	方位	40	78
Neigung (°):	傾斜	NW	-
Höhe d. Baumschicht-1 (m):	高木層の高さ	15	L
Deckung d. Baumschicht-1 (%):	高木層の高さ	8	-
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ	90	-
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層の植被率	3	4
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ	30	60
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層の植被率	1	1
Deckung d. Moosschicht(%):	蘚苔層の植被率	70	80
		55	17
<u>Trennarten d. Gesellsch.:</u>	<u>群落区分種</u>		
<i>Rhus javanica</i>	スルデ	B	2.2
		S, K	+
<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシワ	B	4.4
		K	+
<i>Clerodendron trichotomum</i>	クサギ	S	+
<u>Begleiter:</u>	<u>随伴種</u>		
<i>Cocculus orbiculatus</i>	アオツツラフジ	B, K	+
<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	エノキ	S	1.2
<i>Akebia trifoliata</i>	ミツバアケビ	S, K	+
<i>Dioscorea japonica</i>	ヤマノイモ	S	+
		K	+
<i>Pleioblastus chinensis</i>	アズマネザサ	K	4.4

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr.1 : *Quercus serrata* コナラ B++, *Aphananthe aspera* ムクノキ B-1.1, S-1.2, *Quercus glauca* アラカシ B++, S-1.1, K-1.2, *Dioscorea tokoro* トコロ B++, S-1.2, K++, 2, *Styrax japonica* エゴノキ B-2.2, S-1.2, K++, 2, *Berchemia racemosa* クマヤナギ B++, *Ternstroemia gymnanthera* モッコク S++, *Eurya japonica* ヒサカキ S-1.1, K++, *Rosa multiflora* ノイバラ S++, 2, *Akebia quinata* アケビ S++, *Callicarpa japonica* ムラサキシキブ S++, *Stephanandra incisa* コゴメウツギ S-2.2, *Viburnum dilatatum* ガマズミ S++, *Euonymus sieboldianus* マユミ S++, *Ilex integra*モチノキ S++, *Zelkova serrata* ケヤキ S++, K++, 2, *Morus bombycis* ヤマグル S++, *Pourthiaea villosa* var. *laevis* カマツカ S++, K++, *Quercus myrsinaefolia* シラカシ S++, 2, *Lonicera gracilipes* var. *glabra* ウグイスカグラ S++, *Pleioblastus simonii* メダケ S++, 2, *Persea thunbergii* タブノキ S++, *Camellia japonica* ヤブツバキ S++, *Quercus acuta* アカガシ S++, K++, *Phryma leptostachya* var. *asiatica* ハエドクツウ K++, *Lonicera japonica* スイカズラ K++, 2, *Smilax china* サルトリイバラ K++, 2, *Ophiopogon japonicus* var. *caespitosus* カブダチジャノヒゲ K-1.2, *Euonymus alatus* var. *apterus* f. *ciliatodentatus* コマユミ K++, *Vitis ficifolia* var. *lobata* エビヅル K++, 2, *Liriope platyphylla* ヤブラン K++, 2, *Carex pisiformis* ホンモンジスゲ K-1.2, *Lygodium japonicum* カニクサ K++, 2, *Smilax riparia* var. *ussuriensis* シオデ K++, 2, *Oplismenus undulatifolius* var. *japonicus* コチヂミザサ K-1.2, *Viola grypoceras* タチツボスミレ K++, 2, *Calanthe discolor* エビネ K++, 2, *Ardisia japonica* ヤブコウジ K++, 2, *Rhynchosia volubilis* タンキリマメ K++, 2, *Athyrium niponicum* イヌワラビ K++, *Eupatorium chinense* var. *simplicifolium* ヒョドリバナ K++, *Wisteria floribunda* フジ K++, *Disporum sessile* ホウチャクツウ K-1.2, *Lilium auratum* ヤマユリ K++, *Gynostemma pentaphyllum* アマチャヅル K++, *Commelina communis* ツクサ K++, *Carex lanceolata* ヒカゲスゲ K-1.2, *Aster scaber* シラヤマギク K++, in 2 : *Weigela coraeensis* ハコネウツギ S-1.1, *Alnus hirsuta* var. *sibirica* ヤマハンノキ S++, *Kalopanax pictus* ハリギリ S++, *Amelops brevipedunculata* ノブドウ S++, *Celastrus orbiculatus* ツルウメモドキ S-1.1, K++, 2, *Broussonetia kazinoki* コウゾ S++, *Miscanthus sinensis* ススキ K-3.3, *Paederia scandens* var. *mairei* ヘクソカズラ K++, 2, *Zanthoxylum piperitum* サンショウ K++, *Aralia elata* タラノキ K++.

られた。

ii) 生育地・分布

日当たりの良い林縁，伐採跡地のほか，畑放棄地でも5～10年経過すると成立する。土壌は適潤な富栄養土を指標する。

海老名市域では洪積台地上の人為的攪乱の及んだ立地に小面積で点在している。

iii) 遷移ほか

クサギーアカメガシワ群落の構成種の多くは鳥に食され，糞にまじって種子の散布される動物散布型からなる。伐採跡地などで発芽した種子は，十分な光条件のもとで早く生長し，低木林を形成する（先駆性低木林）。

iv) 人とのかかわりあい

人為的攪乱の指標群落となる。

v) 自然保護

クサギーアカメガシワ群落には動物散布植物が多く，とくに鳥類にとって格好の餌場，すみかとなる。

(19) ハコネウツギーオオバヤシャブシ群集

Weigelo coraeensis-Alnetum sieboldianae Ohba et Sugawara

1979 (Tab. 14)

i) 相観・組成

群落高は1.5～3 mで，2層からなる低木林。低木層にハコネウツギが優占する。草本層には，アマチャヅル，ヨモギ，ハエドクソウなど林縁生の種が生育し，アズマネザサが優占しやすい。

ii) 生育地・分布

日当たりのよい丘陵の林縁部。クサギーコナラ群集やヒノキ植林に接していることが多い。

上今泉から国分にかけての丘陵斜面に分布している。広域的には神奈川県から静岡県へ沿海部にみられる。

iii) 遷移ほか

陽地生低木林で森林が破壊をうけると，先駆的に発達する。

iv) 人とのかかわりあい

ハコネウツギは栽培が容易で花がきれいなため，庭にうえられることが多い。

v) 自然保護

自生は少ないが，人為的干渉にも強く，とくに保護を必要としない。



Fig. 13 つる—低木からなる林縁群落のセンニンソウ群集（滝ノ本）。

Das Lianen-reiche *Clematidetum terniflorae* ist eine Mantelgesellschaft (Takinomoto).

(20) センニンソウ群集

Clematidetum terniflorae Miyawaki et Fujiwara em. Murakami in
Miyawaki 1983 (Tab. 14)

i) 相観・組成

センニンソウ、エビヅル、フジ、トコロ、ヤマノイモ、ノブドウ、スイカズラ、カミエビなどの夏緑性のつる植物が混生し、ブッシュ状の植分を形成する。

ii) 生育地・分布

クヌギ・コナラ林、スギ・ヒノキ植林など森林植生の林縁部に成立する。立地は日当たりが良く、土壌は森林からの滲出水などによって適潤な場合が多い。

海老名市域では森林植生の多い洪積台地上の丘陵部に点在してみられる。

iii) 遷移ほか

つる植物からなるセンニンソウ群集は森林の一部が破壊された場合、自然の治癒組織としていち早く傷部を覆いつくす働きがある。

iv) 人とのかかわりあい

アケビ、ヤマノイモ、エビヅルなど人間に好んで食される植物が多い。史前帰化植物のクズは、センニンソウ群集に伴生することもあり。クズの根はデンプン質が豊富で昔は良く食用に供せられた。



Fig. 14 河川沿いに植栽されることも多いメダケ群集（新宿）。

Die meisten Bestände von *Pleiblastus simonii* sind als Hochwasserschutz gepflanzt (Shinsiku).

v) 自然保護

とくに保護は必要としない。

(21) メダケ群集

***Pleiblastietum simonii* Minamikawa 1970 (Tab. 14)**

i) 相観・組成

メダケの優占する低木林。メダケの植被が密なため、林床の伴生種は少ない。アケビ、スイカズラ、センニンソウなどのツル植物のほか、エノキ、ムクノキ、ゴンズイなど適潤な立地を好む陽地生夏緑広葉樹もみられる。また、ヤブラン、シュロ、アオキ、ジャノヒゲなど耐陰性の常緑植物も生育している。

メダケ群集はメダケ、ホテイチクを標徴種・区分種としてまとめられた。

ii) 生育地・分布

メダケ群集の自然の生育地では、海岸の風衝断崖に持続群落を形成している。海老名市域では相模川の堤沿い、本郷の水系沿いに帯状に発達した植分がみられる。

iii) 遷移ほか

メダケが密生すると他の植物が高い活力で生育することができず、メダケ群集の持続的な代償植生が形成される。陽地生のエノキ、ムクノキ、ミズキ、ゴンズイなどがメダケの背丈を越えて

生長すると、急速に林冠が発達し、森林に遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

メダケは密な植分を発達させるので、護岸用に植栽されることも多い。また材は工芸用に使われる。

v) 自然保護

とくに保護対策を講ずる必要はない。

3) 草原・浮水植物群落 Wiesen und Schwimmblattgesellschaften

(22) チガヤ群落

Imperata cylindrica var. *koenigii*-Gesellschaft (Tab. 15)

i) 相観・組成

イネ科の高茎な多年生草本植物であるチガヤの優占する草原。他にオニウシノケ、コヌカグサ、スギナ、ハルジオンなどが伴生している。チガヤ、キンエノコロ、ハルジオンで区分される。

ii) 生育地・分布

砂地や火山灰土の比較的乾燥した貧養立地に成立する。日当たりのよい土手、畦に帯状に植分を発達させている。



Fig. 15 乾燥した砂地に発達するチガヤ群落（相模川河川敷）。

Die *Imperata cylindrica* var. *koenigii*-Gesellschaft lebt an trocknen Sand-Standorten (Flußbett des Sagami).

Tab. 15 二 次 草 原
Sekundäre Wiesen

1: Imperata cylindrica var. koenigii-Gesellschaft					
2: Miscanthus sinensis-Gesellschaft					
3: Youngio denticulatae-Macleayetum cordatae					
Spalte:	群落区分	1 2 3			
Laufende Nr.:	通し番号	1	2	3	4
Feld-Nr.:	調査番号	EG	E	E	E
Datum d. Aufnahme:	調査年月日	6	151	100	99
		'83	'84	'84	'84
		8	11	6	6
		31	14	22	22
Größe d. Probestfläche (m ²):	調査面積	2	16	16	25
Höhe über Meer (m):	海拔高度	14	10	34	38
Exposition:	方位	-	-	-	N
Neigung (°):	傾斜	L	L	L	45
Höhe d. Vegetation (cm):	植生高	0.6	0.5	1.8	1.0
Deckung d. Vegetation (%):	全植被率	90	90	80	60
Deckung d. Moosschicht(%):	蘚苔層の植被率	14	11	33	21
<u>Trennarten d. Gesellsch.:</u>		群落区分種			
Imperata cylindrica var. koenigii	チガヤ	5.5	4.4	.	.
Setaria glauca	キンエノコロ	+2	+2	.	.
Erigeron philadelphicus	ハルジオン	+	+	.	.
<u>Trennarten d. Gesellsch.:</u>		群落区分種			
Miscanthus sinensis	ススキ	.	.	4.4	+
Aster ageratoides var. ovatus	ノコンギク	.	.	1.1	.
Eupatorium chinense var. simplicifolium	ヒヨドリバナ	.	.	+2	.
Lespedeza pilosa	ネコハギ	.	.	+2	.
Chrysanthemum makinoi	リュウノウギク	.	.	+	.
Trisetum bifidum	カニツリグサ	.	.	+	.
<u>Kenn- u. Trennarten d. Ass.:</u>		群集標徴種・区分種			
Paraixeris denticulata	ヤクシソウ	.	.	+2	1.2
Macleaya cordata	タケニグサ	.	.	.	2.3
Aralia cordata	ウド	.	.	.	1.1
Ixeris stolonifera	イワニガナ	.	.	.	+
Petasites japonicus	フキ	.	.	.	+
<u>Begleiter:</u>		随伴種			
Equisetum arvense	スギナ	1.1	.	2.3	3.4
Artemisia princeps	ヨモギ	+2	.	1.2	1.2
Lactuca indica	アキノノゲシ	+2	.	+2	.
Lespedeza cuneata	メドハギ	.	.	+2	+2
Erigeron annuus	ヒメジョオン	.	.	1.1	+
Campanula punctata	ホタルブクロ	.	.	+2	+
Cocculus orbiculatus	アオツラフジ	.	.	+	+

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr.1 : Trifolium repens シロツメクサ 1.2, Setaria faberi
 アキノエノコログサ +2, Festuca arundinacea オニウシノケグサ +2, Oxalis corniculata f. erecta タチカタバミ +2,
 Holcus lanatus シラゲガヤ +, Dactylis glomerata カモガヤ +, Bidens pilosa コセンダングサ +, Erigeron
 sumatrensis オオアレチノギク +, in 2 : Arundinella hirta トグシバ 2.3, Plantago asiatica オオバコ +2,
 Solidago altissima セイタカアワダチソウ +2, Agrostis alba コスガグサ +2, Rosa multiflora ノイバラ +, Carex
 leucochlora アオスゲ +, Vicia angustifolia ヤハズエンドウ +, in 3 : Amphicarpaea trisperma ヤブマメ 1.2,
 Stachys japonica var. intermedia イヌゴマ 1.2, Poa sphondyliodes イチゴツナギ 1.2, Cassia nomame
 カウラケツメミ 1.1, Agropyron racemiferum アオカモジグサ +2, Agrostis clavata var. nukabo スカボ +2,
 Commelina communis ユツクサ +2, Carex japonica ヒコグサ +2, Calystegia japonica ヒルガオ +,
 Houttuynia cordata ドクダミ +, Digitalis adscendens メヒシバ +, Viola grypoceras クチツボスミレ +,
 Hemerocallis fulva f. kwanso ヤブカンゾウ +, Wisteria floribunda フジ +, Kummerovia striata ヤハズソウ
 +, Ambrosia artemisiifolia var. elatior ブタクサ +, Duchesnea chrysantha ヘビイチゴ +, Pteris
 japonica コウゾリナ +, Elsholtzia ciliata ナギナタコウジュ +, in 4 : Aralia elata クラノキ +, Ampelopsis
 brevipedunculata ノブドウ +, Lysimachia japonica f. subsessilis コナスビ +, Youngia japonica
 オニタビラコ +, Rubus palmatus var. coptophyllus モミジイチゴ +, Akebia quinata アケビ +, Astilbe
 thunbergii アシショウマ +, Sonchus oleraceus ノゲシ +, Alnus hirsuta var. sibirica ヤマハシノキ +.

iii) 遷移ほか

海老名市では畦に発達する植分がもっとも多い。畦が古くなると土壌の固結，貧養化が生じ，
 ヌウガギク—ヨモギ群集からチガヤ群落へ遷移する。

iv) 人とのかわりあい

野火が繰り返されると植分が広がりやすい。

(23) ススキ群落

Miscanthus sinensis-Gesellschaft (Tab. 15)

i) 相観・組成



Fig. 16 造成後3～4年放棄された立地に多年生のススキ群落が成立している（宮台）。
3 bis 4 Jahre nach dem Bau entwickelt sich die *Miscanthus sinensis*-Gesellschaft (Miyadai).

ススキの優占する多年生草本植物群落。スギナ、ヨモギの常在度が高く、他にもリュウノウギク、カニツリグサ、ノコンギク、ネコハギ、コウゾリナ、ヘクソカズラ、アズマネザサなどが混生している。ススキとアズマネザサの競争は拮抗状態にあり、アズマネザサが優占すると組成は著しく貧化する。

ii) 生育地・分布

日当たりのよい土手。造成地でも4～5年放棄されると、ススキ群落が形成される。

分布は洪積台地上に多く、畑放棄地、国分寺台、上今泉の造成地によくみられる。相模川流域にはススキに似たオギの草原が発達している。

iii) 遷移ほか

ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落など遷移初期の1年生雑草群落から遷移するほか、アキノノゲシーカナムグラ群集、ユウガギクーヨモギ群集などは立地の貧養、乾燥化が進むと、ススキ群落に遷移しやすい。

iv) 人とのかわりあい

秋の七草の多くはススキ草原の構成種である。火入れなどによって植分が長年持続するとリンドウ、オミナエシ、ヤマハギなどが生育するようになる。カヤ場として毎年火入れの行なわれるススキ草原はもうみられない。



Fig. 17 斜面崩壊地のヤクシソウ—タケニグサ群集 (宮台)。

Das *Youngio denticulatae*-*Macleayetum cordatae* der Erosionshänge (Miyadai).



Fig. 18 半陰地となる林縁部のチヂミザサードクダミ群集 (宮台)。

Das *Oplismeno undulatifolii*-*Houttuynietum cordatae* bildet einen Saum im Halbschatten (Miyadai).



Fig. 19 農道沿いに発達するカラムシ群落（中野）。
Die *Boehmeria nippononivea*-Gesellschaft an den Wegen entlang (Nakano).

v) 自然保護

海老名市のススキ群落はいずれも遷移の途中に出現した先駆的な植分で、秋の七草にみられるような本来のススキ草原の構成種は復元していない。

(24) ヤクシソウ・タケニグサ群集

Youngio denticulatae-*Macleayetum cordatae* Ohba 1975 (Tab. 15)

i) 相観・組成

ヤクシソウ、タケニグサ、ウド、コナスビ、イワニガナなどの散生する越年生、多年生草本植物群落。

ii) 生育地・分布

日当たりのよい急斜面崩壊地に成立し、山間部ではよく林道ののり面にみられる。海老名市宮台では、宅地造成でけずりとられた丘陵ののり面に植分が確認されている。

iii) 遷移ほか

崩壊の持続する立地に成立し、安定してしまうと、ススキやキイチゴ類、タラノキの多い群落に遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

不安定な立地を指標しているので、造成地に出現するのは好ましくない。

v) 自然保護

とくになし。

(25) チヂミザサードクダミ群集

Oplismeno undulatifolii-Houttuynietum cordatae Ohba et
Sugawara 1982 (Tab. 8)

i) 相観・組成

ドクダミ，ハナタデの優占する1年生・多年生草本植物群落。群落高は30cm以下と低く，密生した植分を形成する。ドクダミ，ハナタデ，イヌワラビで区分されている。

ii) 生育地・分布

林縁に沿ったすそ部に帯状に発達する。樹冠におおわれた半陰地で適潤な立地となっている。イノデータブノキ群集，スギ・ヒノキ植林など常緑樹林に接していることが多い。

iii) 遷移ほか

持続群落として成立している。

iv) 人とのかかわりあい

森に沿った小道沿いにみられ，軽度の踏圧の影響もうけている。

v) 自然保護

とくになし。

(26) ヤブマオ群落

Boehmeria longispica-Gesellschaft (Tab. 8)

i) 相観・組成

ヤブマオの優占する多年生草本植物群落。群落高は100cmを越える。ヤブマオ，ヒメワラビで区分される。

ii) 生育地・分布

ヤブツバキクラス域の半陰地から日当たりの良い路傍，林縁に生育する。土壌は適潤である。

iii) 遷移ほか

持続性が高い。

iv) 人とのかかわりあい

典型的な人里植物群落で，農村景観を特徴づける群落のひとつである。

v) 自然保護

とくになし。



Fig. 20 路傍のクサニワトコ群落 (杉本)。

Die *Sambucus chinensis*-Gesellschaft des Wegrandes (Sugimoto).

(27) カラムシ群落

Boehmeria nipononivea-Gesellschaft (Tab. 8)

i) 相観・組成

カラムシの優占する多年生草本植物群落。カラムシはヤブマオと同じイラクサ科カラムシ属の植物で、ヤブマオの葉が対生、カラムシの葉が互性なので容易に区別がつく。

群落はカラムシのほか、ノビルで区分されている。

ii) 生育地・分布

日当たりのよい路傍，畦に生育する。乾燥にも強く，石垣などに成立することもある。

iii) 遷移ほか

持続群落を形成する。

iv) 人とのかかわりあい

昔はカラムシの茎の繊維が工芸に利用されたが，今日ではあまりみられなくなった。人里植物群落のひとつでカラムシは史前帰化植物でないかとする意見もある。

v) 自然保護

とくになし。

(28) クサニワトコ群落

Sambucus chinensis-Gesellschaft (Tab. 8)

i) 相観・組成

クサニワトコの優占する多年生草本植物群落，群落高は 1.5m になる。

ii) 生育地・分布

日当たりのよい路傍。海老名市では杉本で分布が 1 ケ所確認されたにとどまる。

iii) 遷移ほか

クサニワトコの葉茎が密生し，持続群落を形成する。

iv) 人とのかかわりあい

人里植物群落のひとつである。

v) 自然保護

クサニワトコ群落は暖かい地域に多く，関東地方では分布もまれである。恐らく種子が鳥によって運びこまれたと考えられる。

(29) ユウガギクーヨモギ群集

Kalimerido-Artemisietum principis Okuda 1978 (Tab. 8)

i) 相観・組成

ヨモギ，ユウガギク，カントウヨメナなどキク科の多年生草本植物の優占する路傍雑草群落。スイバ，カントウヨメナ，ウシハコベ，オオジシバリ，ユウガギク，ヒルガオ，タチカタバミで標徴・区分されている。

ii) 生育地・分布

適潤な土壌からなる日当たりのよい路傍に生育する。海老名市では田畑の畦道沿いに普通にみられる。

iii) 遷移ほか

田の畦ではミゾカクシーオオジシバリ群集への踏圧が少なくなると，ユウガギクーヨモギ群集に遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

秋季にユウガギク，カントウヨメナなどのノギクが咲きそろう。

多年生の根茎によって畦の側面が崩壊から保護される。

v) 自然保護

田園景観を特徴づける植生のひとつで，景観保全上残される対象となる。

(30) オドリコソウ群落

Lamium barbatum-Gesellschaft (Tab. 8)



Fig. 21 ユウガギク, カントウヨメナなどノギクで構成されたユウガギク-ヨモギ群集。
Für das *Kalimerido-Artemisietum principis* sind kleine Blumen von
Compositen charakteristisch.

i) 相観・組成

オドリコソウの優占する多年生草本植物群落。群落高は 40~50cm で, 春季に最盛期をむかえる。群落はヤブジラミ, オドリコソウ, カテンソウで区分されている。

ii) 生育地・分布

やや半陰となる路傍で, 林縁部に帯状に発達することが多い。立地はやや湿潤で土壌は深い。丘陵の山足部, 段丘斜面下部, 相模川の自然堤防沿いなどに分布している。

iii) 遷移ほか

持続群落を形成している。

iv) 人とのかかわりあい

古くからある農道, 小道沿いにみられることが多く, 新興の住宅地域には分布しない。

v) 自然保護

田園景観の構成群落で, 景観保全上残していくのが好ましい。

(31) アキノノゲシ-カナムグラ群集

Lactuco indicae-Humuletum japonici Okuda 1978 (Tab. 8)

i) 相観・組成

1年生つる植物のカナムグラの優占する草本植物群落。カナムグラが地上をほうようにおおい,

アキノノゲシが突きぬけたように直立している。クズを伴うことも多い。

ii) 生育地・分布

ほう軟な土壌からなる富栄養立地に生育し、日当たりのよい場所を好む。畑放棄地の代表的な植物群落で、洪積台地上の耕作地に分布している。

iii) 遷移ほか

耕作地雑草群落のカラスビジャクーニシキソウ群集から遷移し、時間の経過とともにさらに高茎なススキ群落、セイタカアワダチソウ群落に遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

耕作が放棄されることにより出現する植物群落である。

v) 自然保護

造成予定の休耕畑などに出現し、田園景観破壊の指標群落となる。

(32) チカラシバ群落

Pennisetum alopecuroides-Gesellschaft (Tab. 8)

i) 相観・組成

チカラシバの叢生した多年生草本植物群落。群落高は 40cm にみたない。

ii) 生育地・分布

日当たりの良い路傍や踏圧の少ない路上に生育している。往来の少ない農道、学校のグラウンドに分布している。

iii) 遷移ほか

カワラスゲーオオバコ群集、カゼクサーオオバコ群集に与えられる踏圧が減少するとチカラシバ群落に遷移しやすい。

iv) 人とのかかわりあい

グラウンドに普通な雑草群落で、足かけで転ばすための遊びで子どもの結ぶ草がチカラシバである。

v) 自然保護

とくになし。

(33) カゼクサーオオバコ群集

Eragrostio ferrugineae-Plantagininetum asiaticae (Miyawaki 1964)

Tx. 1977 (Tab. 7)

i) 相観・組成

イネ科のカゼクサの優占する草本植物群落。植生高は 30~40cm で、70%以上の植被率を占めている。伴生種にはオオバコ、シロツメクサ、ヘビイチゴ、ゲンノショウコなどロゼット状、ほ

ふく状の短茎植物が多い。

ii) 生育地・分布

カゼクサーオオバコ群集は踏圧下に成立する路上雑草群落で、畦道やグラウンドに普通にみられる。植分に加えられる踏圧はそれほど頻雑でなく、踏圧に対して抵抗力の強い叢生、ほふく、ロゼット状植物が特徴的である。

iii) 遷移ほか

踏圧下に持続する代償植生である。踏圧が強まれば、より短茎のクサイーオオバコ群集、あるいは裸地に退行する。踏圧が弱まれば、より高茎のユウガギクーヨモギ群集に遷移が進行する。

iv) 人とのかわりあい

人の往来の程度を指標する植物群落で、比較的踏圧頻度の少ない農道に特徴的である。

v) 自然保護

最近では、除草剤の散布により枯死した植分を多くみかける。カゼクサーオオバコ群集は短茎で農作業のじゃまにならないし、作物と競合することもない。むしろ除草剤が二次的にもたらす毒性に問題がある。



Fig. 22 農道上に発達したカゼクサーオオバコ群集 (三島)。

Das *Eragrostio ferrugineae-Plantaginietum asiaticae* ist eine häufige Trittgesellschaft (Mishima).

(34) カワラスゲーオオバコ群集

Carici incisae-Plantaginetum asiaticae (Miyawaki 1964) Tx. 1977

(Tab. 7)

i) 相観・組成

オオバコの優占する短茎な多年生植物群落。クサイ，カワラスゲで標徴・区分される。

ii) 生育地・分布

踏圧の頻繁な路上に生育し，やや湿った土壌を指標している。海老名市での分布は少なく，杉本の畦道で植生調査資料が得られている。

iii) 遷移ほか

踏圧がなくなると，競争の強い高茎なユウガギクーヨモギ群集，チカラシバ群落に遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

直接的な人間の影響下に成立した植生である。区分種となったカワラスゲ，クサイなどの本来の生育地は中流河川の河川敷にある。

v) 自然保護

とくになし。

(35) ミゾカクシーオオジシバリ群集

Lobelio-Ixeridetum japonicae Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 7)

i) 相観・組成

春季に群落の最盛期があり，オオジシバリ，ケキツネノボタン，オヘビイチゴ，ヘビイチゴ，ヒメヘビイチゴの黄花，ムラサキサギゴケ，カキドオシ，オオイヌノフグリが目立つ。群落高は5～30cmと低茎で，踏圧に抵抗力のあるロゼット，ほふく状植物が多い。

ii) 生育地・分布

富養で湿潤な泥質土壌を指標する。田おこしによって作られた畦に特徴的な路上雑草群落のひとつである。

海老名市域では水田の多い沖積低地に普通にみられる。

iii) 遷移ほか

水田耕作によって出現する代償植生で，畦が古くなり，乾燥，貧養化が進むとユウガギクーヨモギ群集に遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

ミゾカクシーオオジシバリ群集の構成種には，流水辺に自然の生育域をもっている種群が多い。畦ぬりという人為的に作られた環境が流水辺と似るため，代償的な植生が形成されている。

v) 自然保護

特筆することはない。

(36) ギンゴケ・ツメクサ群集

Bryo-Saginetum japonicae Ohba 1971 (Tab. 7)

i) 相観・組成

短茎で小形なツメクサとギンゴケで構成された単純な組成の群落。

ii) 生育地・分布

石だたみやコンクリートのすき間の有機質のたまった立地に生育している。市街地に結びついた都会雑草群落のひとつである。

iii) 遷移ほか

高等植物で構成された植物群落ではもっとも環境条件の厳しい立地を占めている。乾燥，踏圧などの条件がさらに厳しくなると裸地化する。

iv) 人とのかかわりあい

人間活動に結びついた都市雑草群落のひとつである。

v) 自然保護

とくになし。

(37) ジュズダマ群落

Coix lacryma-jobi-Gesellschaft (Tab. 9)

Fig. 23 水田放棄地に発達したジュズダマ群落 (三島)。

Die *Coix lacryma-jobi*-Gesellschaft in einem brach liegenden Reisfeld (Mishima).

i) 相観・組成

アジア原産帰化植物のジュズダマの優占する草原。ジュズダマ，タネツケバナで区分されている。

ii) 生育地・分布

小河川の水辺，水田放棄地などにみられ，流水のほとんどない，やや富養化した立地を指標している。海老名市での分布は比較的めずらしく，永池川沿いの水田放棄地で植生調査資料が得られている。

iii) 遷移ほか

隣接してヨシ群落があることから，時間とともに貧養化が進み，在来生のヨシ群落に遷移するとおもわれる。

iv) 人とかかわりあい

ジュズダマの実の名のとおり，子どもたちが糸を通してジュズダマを作って遊ぶ。

v) 自然保護

とくになし。

(38) ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落

Erigeron canadensis-*Erigeron sumatrensis*-Gesellschaft (Tab. 16)

i) 相観・組成

越年生植物であるムカシヨモギ属のヒメムカシヨモギ，オオアレチノギクの優占する植物群落。区分種となるこれら2種は，帰化植物として北米よりもたらされた。植生高は1.6mと高茎で，他にもオオイヌタデ，アレチマツヨイ，コセンダン，ハルジオン，ブタクサ，ケアリタソウなど多くの帰化植物が伴生している。

ii) 生育地・分布

畑放棄地，造成地など人為的な攪乱を強く受けた立地に成立する。

海老名市では造成地，鉄道沿いなどに点在してみられ，量的には多くない。

iii) 遷移ほか

畑放棄地ではカラスビシャクーニシキソウ群集より，造成地ではオヒシバアキメヒシバ群集など，いずれも短期1年生雑草群落から遷移する。ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落は遷移の途中相として出現し，1～2年でススキやヨモギの優占する群落に遷移していく。

iv) 人とかかわりあい

帰化植物が多く，都市雑草群落ともよばれる。都市化とともに分布域を拡大させている。

v) 自然保護

特筆することはない。



Fig. 24 畑放棄地に成立したヒメムカシヨモギ—オオアレチノギク群落。
Wenn der Acker nicht mehr bestellt wird, entwickelt sich im folgenden Jahr die
Erigeron canadensis-*Erigeron sumatrensis*-Gesellschaft.

(39) カラスビシャク—ニシキソウ群集

Pinellio ternatae-*Euphorbietum pseudochamaesycis* Miyawaki
1969 (Tab. 16)

i) 相観・組成

短期1年生の小形植物で構成されている。優占種はとくになく、よく出現する種にはスベリヒユ、ザクロソウ、カヤツリグサ、コゴメガヤツリ、エノキグサ、クワクサ、トキンソウ、ハハコグサ、コニシキソウ、ツメクサなどがある。群集の標徴種とされるカラスビシャクはサトイモ科の地中植物で、海老名市ではあまり多くない。

ii) 生育地・分布

耕起、施肥、除草、刈取りなど集約的管理の行われる耕作地で、発芽から結実までを完結できる短期1年生草本植物が適応して生育している。構成種は富養地を好み、除草、刈取り、踏圧に抵抗のあるほふく状の小形植物が多い。

海老名市域では畑地、果樹園、苗圃の集中する洪積台地上に普通にみられる。

iii) 遷移ほか

カラスビシャク—ニシキソウ群集は耕作に伴う集約的管理下に持続している。耕作が放棄されると、より競争力の強い高茎の越年生植物あるいはカナムグラ、ヤブマメなどのつる植物が侵入、



Fig. 25 集約的な管理下に成立したカラスビシャクーニシキソウ群集。
Das *Pinellio ternatae*-*Euphorbietum pseudochamaesycis*
ist eine typische Acker-Unkrautgesellschaft.

ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落, アキノノゲシーカナムグラ群落などに遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

集約的管理の施された健全な畑地の指標的な植物群落。

v) 自然保護

特筆することはない。

(40) アオビユ群落

Amaranthus viridis-Gesellschaft (Tab. 16)

i) 相観・組成

アオビユ, ホソアオビユを優占種, 区分種とする1年生草本植物群落。これら2種は熱帯アメリカ産のヒユ科の帰化植物で, 日本では高温となる夏季に出現している。

ii) 生育地・分布

日当たりが良く窒素分の多い立地に出現する。放棄されたばかりの畑地などにややまれに分布している。植生調査資料は堆肥置き場で得られている。

iii) 遷移ほか

遷移の初期に出現する雑草群落で2〜3年もたてば, ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群

落，セイタカアワダチソウ群落などに遷移する。

iv) 人とのかかわりあい

きわめて強い好窒素性植物群落で，成立に適した立地は人為的影響下でしか形成されない。

v) 自然保護

とくになし。

(41) ホトケノザーコハコベ群落

Lamium amplexicaule-Stellaria media-Gesellschaft (Tab. 16)

i) 相観・組成

ホトケノザ，コハコベ，オオイヌノフグリなど冬季から春季に生育する短期1年生雑草で構成された草本植物群落。構成種の多くは欧州原産の小形の帰化植物で，温帯性の種からなりたっている。群落区分種にはノボロギク，オランダミミナグサ，コハコベ，ホトケノザがある。

ii) 生育地・分布

人為的影響が頻繁に加えられる耕作地に普通で，都会の街路樹の下などにもよく出現する。

iii) 遷移ほか

耕作地では夏季雑草群落のカラスビシャクーシキソウ群集と季節的にすみわけている。群落



Fig. 26 春季の畑地雑草群落，ホトケノザーコハコベ群落。

Die *Lamium amplexicaule-Stellaria media*-Gesellschaft ist eine Ackerunkrautgesellschaft, die ihr Optimum im Frühling hat.

は集約的管理下に持続しているが、放棄されれば、より競争力の強い高茎な雑草群落に遷移する。

iv) 人とかかわりあい

耕起、施肥、除草、刈取りという耕作地の集約的管理に適応して短茎、小形、短期生、多い種子生産量といった形態的特質をもった構成種が多い。

v) 自然保護

最近は除草に薬剤（除草剤）を使うところが多く、耕作地の生態系への悪影響が心配される。

(42) オヒシバ—アキメシバ群集

Eleusino indicae-Digitalietum violascentis Okuda 1978 (Tab. 17)

i) 相観・組成

1年生のイネ科のオヒシバ、アキメシバが優占し、この2種によって標徴・区分される植物群落。他にもメヒシバ、コメシバ、オオクサキビなどのイネ科草本植物が伴生している。植生高は30~50cmで、50%以上の植被率を占めている。

ii) 生育地・分布

造成されてまもない立地。草むしりのよく行われるグラウンドなどで、夏季に発芽し、秋季にはすでに結実をすませる雑草群落の代表格である。

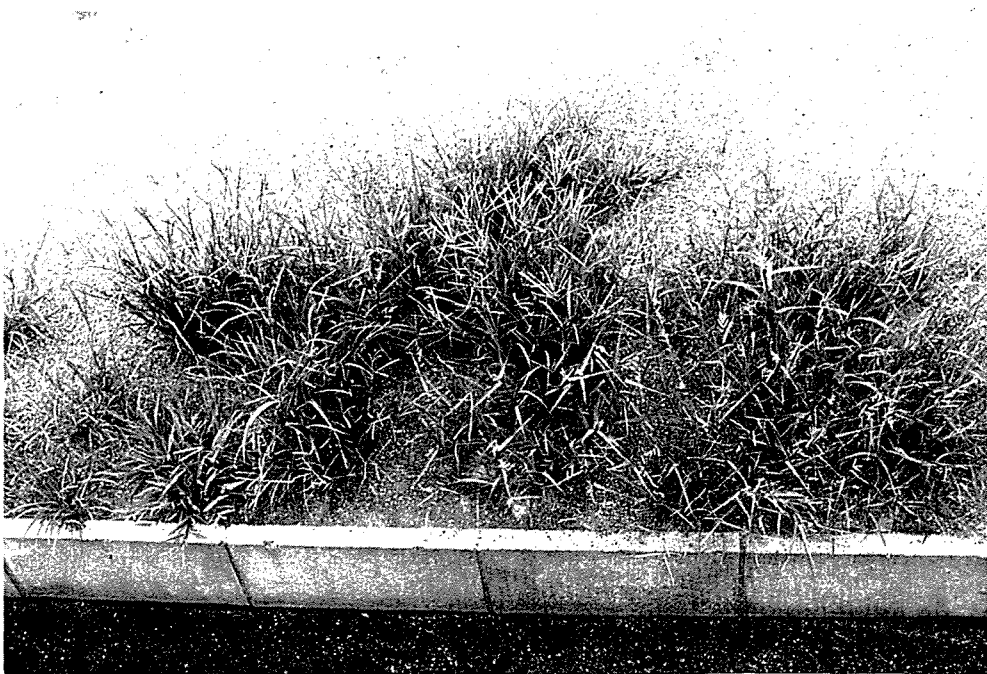


Fig. 27 雑草として夏季にグラウンドにはびこることの多いオヒシバ—アキメシバ群集。

Das *Eleusino indicae-Digitalietum violascentis* ist im Sommer sehr häufig auf Sportplätzen.

海老名市域では学校の校庭，駐車場などに普通にみかける。

iii) 遷移ほか

裸地にはじめに侵入する先駆性 1 年生草本植物群落である。構成種の種子生産量は多く，種子重が軽いため，風などによってまんべんなく種子散布が行われている。

iv) 人とのかかわりあい

夏から秋にかけて校庭で行われる草むしりの多くはこの群落の構成種となる。

v) 自然保護

特筆することはない。

(43) アキノエノコログサーコセンダングサ群集

Setario-Bidentetum pilosae Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 17)

i) 相観・組成

メヒシバ，オオイヌタデ，アキノエノコログサ，ブタクサの優占する夏季 1 年生雑草群落。エノコログサ，アキノエノコログサ，ムラサキエノコログサ，イヌビエなどのイネ科植物が多く，ヤハズソウ，カヤツリグサなども伴生している。コセンダングサを欠いているがキンエノコロ，ムラサキエノコロ，エノコログサ，ヤハズソウで標徴・区分されている。

ii) 生育地・分布

造成地，駐車場，グラウンドなどで，草むしりなど適度な人為的干渉の及ぶ立地に成立している。オヒシバ－アキメヒシバ群集の立地に比較して，土壌化が進んでおり，踏圧も少ない。海老名市域では造成地域に集中して分布がみられる。

iii) 遷移ほか

オヒシバ－アキメヒシバ群集から遷移してくることが多く，1～2 年でさらにヨモギやイタドリ優占植分にかわっていく。

iv) 人とのかかわりあい

エノコログサの類はネコジャラシともよばれる身近な植物で，人里植物群落のひとつである。

v) 自然保護

とくになし。

(44) ノミノフスマ－ケイツネノボタン群集

Stellario-Ranunculetum cantoniensis Miyawaki et Okuda 1972

(Tab. 6)

i) 相観・組成

春の水田雑草群落で，ゲンゲが優占してピンク色に水田をうめつくす。ゲンゲの播種が行われない水田ではスズメノテッポウ，セトガヤなどの 1 年生イネ科草本植物の優占することが多い。

伴生種にはノミノフスマ，コオニタビラコ，タネツケバナ，キツネアザミ，スズメノカタビラなどがみられる。

海老名市で植生調査されたノミノフスマーケキツネノボタン群集はゲンゲ，コオニタビラコ，セトガヤ，タネツケバナなどを標徴種・区分種としている。

ii) 生育地・分布

耕起，湛水が行われる前の春季の湿潤な水田を生育地とする。湿田ではタガラシ，カズノコグサが，乾田ではキツネアザミが出現している。

iii) 遷移ほか

秋季にイネの刈取りがあり，そのまま放棄された水田に冬季に発芽，春季の短期間に生長し，開花，結実までを完了する。その後は耕起，湛水によって立地が改変させられるため，遷移は進行しない。

iv) 人とのかかわりあい

春の水田を代表するゲンゲはマメ科の草本植物で，土地を肥えさせるため種子がまかれる。最近では化学肥料が多く使われ，ゲンゲ畑も少なくなっている。

v) 自然保護

特筆することはない。

(45) ミゾソバ群集

Polygonetum thunbergii Lohm. et Miyawaki 1962 (Tab. 6)

i) 相観・組成

ミゾソバが優占し，群落高が50cm 以下の草原。構成種は少なく，チゴザサ，ヤナギタデなどがわずかにみられる。ミゾソバ1種を標徴種とする。

ii) 生育地・分布

水田放棄地，小河川の流水辺などの多湿な立地。ヨシ群落，ナガハギシギシーギシギシ群集，スズメノテッポウタガラシ群集などの隣接群落として生育がみられる。

iii) 遷移ほか

水田ではウリカワコナギ群集から遷移し，短期間でさらに多年生のヨシ群落に遷移することが多い。

iv) 人とのかかわりあい

水田地帯に特徴的な群落である。

v) 自然保護

とくになし。

(46) アゼガヤツリーカワラスガナ群集

Cyperetum globoso-sanguinolenti Okuda 1978 (Tab. 18)

i) 相観・組成

夏季の高温期に発芽から結実までを短期間で行うカヤツリグサ科カヤツリグサ属の1年生草本植物で主に構成されている。植生高は40~50cmで、70%以上の植被率を占めている。優占種にはタマガヤツリとアゼナがあり、他にキカシグサ、ホタルイ、タカサブロウ、コブナグサ、ヒデリコ、ミズガヤツリ、アゼガヤツリ、カワラスガナ、ヒメクグ、ヒメテンツキ、チョウジタデなどが伴生している。

ii) 生育地・分布

水位の変動のある流水辺で、夏季に水位が下がり、泥土の露出した立地に自然植生が形成される。海老名市域では、放棄されてまもない湿田で代償的な植分が確認されている。したがって分布も水田の多い沖積低地に多く、相模川沿いにも自然植生の発達があるとおもわれる。

iii) 遷移ほか

踏圧で水のにじむような湿潤な立地に成立し、遷移系列の初期に出現する植物群落である。時間とともにチゴザサ、ヨシ、ガマなどの多年生高茎草原に遷移する。



Fig. 28 新しい水田放棄地に発達するアゼガヤツリーカワラスガナ群集。

優占種はタマガヤツリ（社家）。

Das *Cyperetum globoso-sanguinolenti* mit dominierendem *Cyperus difformis* in einem brach gefallenem Reisfeld.

iv) 人とのかかわりあい

特筆することはない。

v) 自然保護

特筆することはない。

(47) イガガヤツリ群落

Cyperus polystachyos-Gesellschaft (Tab. 17)

i) 相観・組成

イガガヤツリの優占する短茎な草本植物群落。構成種に1年生、越年生草本植物が多く、群落の最盛期は夏季にある。イガガヤツリとコゴメガヤツリで区分されている。

ii) 生育地・分布

粘土質の火山灰母材が露出した造成地で、排水が悪く、乾燥と多湿状態におかれる。また踏圧の影響も受けやすい。分布は少なく、植生調査資料は門沢橋で1ヶ所得られている。

iii) 遷移ほか

造成地など最初に侵入する先駆的な植物群落。

iv) 人とのかかわりあい

造成地と駐車場にみられる。



Fig. 29 礫の多い駐車場にみられたイガガヤツリ群落 (門沢橋)。

Die *Cyperus polystachyos*-Gesellschaft auf dem Kies eines Autoparkplatzes (Kadosawabashi).

v) 自然保護

田園景観の破壊を指標する植物群落のひとつとなる。

(48) クワイ群落

Sagittaria trifolia var. *caerulea*-Gesellschaft (Tab. 18)

i) 相観・組成

栽培されたとおもわれるクワイの優占する植分。群落高は 40～50cm で、ほかにコナギ、クマビエが生育しているにすぎない。クワイは食料用に中国からもちこまれたホソバオモダカの変種で、在来種のおもダカにもよく似ており区別がむずかしい。今泉小学校そばで植生調査された植分はすでになく、水田に戻されている。クワイ群落はクワイ 1 種で区分されている。

ii) 生育地・分布

グライ土壌が形成される多湿な立地で、水深 0～4 cm の停滞水を伴っている。分布は下今泉の沖積低地上の水田にみられた。

iii) 遷移ほか

調査された1983年の翌年には植分が消失しており、継続的な観察は行われていない。

iv) 人とのかかわりあい

中国から東南アジアでは今日でも食料用に栽培されている。日本では今日ほとんどみられなくなっている。クワイは走出枝の先にできる球茎を食し、クリに似た味わいがある。

v) 自然保護

とくになし。

(49) スマガヤツリ群落

Cyperus glomeratus-Gesellschaft (Tab. 18)

i) 相観・組成

豪壮なカヤツリグサ科 1 年生草本植物のスマガヤツリの優占する草原。群落高は 80cm に達し、伴生種はほとんどみられない。スマガヤツリは夏季に発芽、生長し、秋季には結実をすませる。

ii) 生育地・分布

富養な泥土からなる湿地で、水深 0～3 cm の停滞水をもっている。相模川流域に分布している。

iii) 遷移ほか

隣接して流水側にスズメノテッポウタガラシ群集の生育がみられることから流水による破壊でスズメノテッポウタガラシ群集に偏向遷移することが考えられる。

iv) 人とのかかわりあい

なし。

v) 自然保護

分布は関東以西に限られ、比較的少ない。

(50) ホウキギク群落

Aster subulatus-Gesellschaft (Tab. 18)

i) 相観・組成

ホウキギクの優占する1年生草本植物群落。

ii) 生育地・分布

相模川の砂質土からなる河川敷。

iii) 遷移ほか

タチヤナギ群集が破壊され、疎開した立地に代償植生を形成することが多い。

iv) 人とのかかわりあい

河川敷の車道に沿った窪状地にも帯状に植分が発達する。

v) 自然保護

とくになし。

(51) ウリカワコナギ群集

Sagittario-Monochorietum Miyawaki 1960 (Tab. 18)

i) 相観・組成

湛水された水田で、植栽されたイネとともに生長、イネの刈取り前に結実をすませる雑草で構成されている。植生高は50cmまでで、草本第1層をイネが占め、第2層にウリカワ、コナギ、アギナシ、ミゾハコベなどが生育している。

海老名市域ではウリカワ、コナギ、アギナシ、植栽のイネを標徴種・区分種にウリカワコナギ群集がまとめられている。

ii) 生育地・分布

水深が1～5cmに湛水した水田で、水質は化学肥料の投入によって富養化した状態にある。海老名市の沖積低地に広がる水田では、雑草駆除が良く行われており、ウリカワコナギ群集の発達はい少ない。

iii) 遷移

ウリカワコナギ群集はイネの栽培期間中にだけ生育し、水スキの行われたあとは消滅する。

iv) 人とのかかわりあい

典型的な夏季水田雑草が構成種となっている。除草は、田の草取りとして重労働であった。現在は除草剤が広く使われている。雑草の中にはタイヌビエ、クマビエなどのように穂がでるまでイネと区別のつきづらい種もある。



Fig. 30 ウリカワー コナギ群集の標徴種，コナギ。

Monochoria vaginalis var. *plantaginea* ist eine Kennart des Sagittario-Monochorietum.

v) 自然保護

かつて農薬の使用されなかった時代には水田雑草群落組成も多様で水生の小動物が多く，安定した生態系が維持されていた。

(52) ウキクサーアオウキクサ群落

Spirodela polyrhiza-*Lemna paucicostata*-Gesellschaft (Tab. 19)

i) 相観・組成

アオウキクが100%に近い植被で優占する浮水植物群落。他にウキクサ，イチョウウキゴケなどが伴生している。

ii) 生育地・分布

初夏の頃，富養化した水面に植分を形成する。植分の多くは停滞水域にみられ，湛水した水田に普通である。

iii) 遷移

ウキクサーアオウキクサ群落は1年生で，しかも移動性があり，冬季には消滅する。ウキクサ（広義）の仲間にはアカウキクサ，ヒメウキクサのように常緑性の種もあるが，海老名市では確認されていない。

iv) 人とのかわりあい

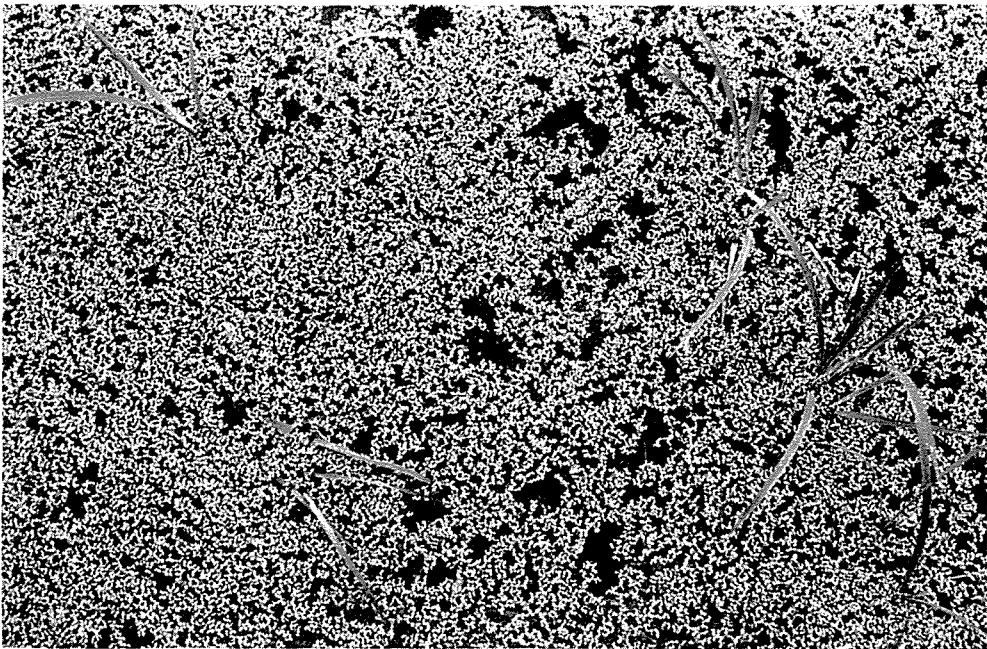


Fig. 31 水田雑草として夏季に繁殖するウキクサー アオウキクサ群落。
Die *Spirodela polyrhiza*-*Lemna paucicostata*-Gesellschaft entwickelt sich im Sommer als eine Reisfeld-Unkrautgesellschaft.

Tab. 19 ウキクサーアオウキクサ群落
Spirodela polyrhiza-*Lemna paucicostata*-Gesellschaft

Laufende Nr.:	通し番号	1	2	3	4
Feld-Nr.:	調査番号	EG	EG	E	EZ
		20	29	65	201
Datum d. Aufnahme:	調査年月日	'83	'83	'84	'85
		8	8	5	8
		31	31	9	4
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	1	3	2.5	9
Höhe über Meer (m):	海拔高度	22	22	23	25
Wassertief(cm):	水深	15	10	20	5
Deckung d. Vegetation (%):	全植被率	100	90	90	100
Artenzahl:	出現種数	2	2	2	2
<hr/>					
Trennarten d. Gesellsch.:		群落区分種			
Lemna paucicostata	アオウキクサ	5.5	5.5	4.4	5.5
Spirodela polyrhiza	ウキクサ	3.3	3.3	2.3	2.2

ウキクサーアオウキクサ群落は水田雑草群落のひとつで，駆除の対象となっている。

v) 自然保護
特筆することはない。

(53) ヒルムシロ群落

Potamogeton distinctus-Gesellschaft (Tab. 20)

i) 相観・組成

ヒルムシロの優占する浮水植物群落。

ii) 生育地・分布

池，湿田などの停滞水域。海老名市ではクワイ群落に隣接してみられた。



Fig. 32 海老名市では珍しい水田のヒルムシロ群落（田中）。

Die *Potamogeton distinctus*-Gesellschaft ist selten im Reisfeldern der Stadt Ebina (Tanaka).

Tab. 20 ヒルムシロ群落
Potamogeton distinctus-Gesellschaft

Laufende Nr.:	通し番号	1	2	3	4
Feld-Nr.:	調査番号	EG	EG	EG	EG
		23	24	25	26
Datum d. Aufnahme:	調査年月日	'83	'83	'83	'83
		8	8	8	8
		31	31	31	31
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	1	1	1	1
Höhe über Meer (m):	海拔高度	22	22	22	22
Wassertief(cm):	水深	15	15	15	15
Deckung d. Vegetation (%):	全植被率	90	90	80	95
Artenzahl:	出現種数	1	1	1	1
<hr/>					
Trennarten d. Gesellsch.:	群落区分種				
Potamogeton distinctus	ヒルムシロ	5.5	5.5	5.5	5.5

iii) 遷移ほか

水質が変化しない限り持続群落として成立する。

iv) 人とのかかわりあい

集約的な管理を受ける水田に発達するのはめずらしい。

v) 自然保護

植生調査された植分は稲作用水田にもどされ、現在はみられない。

2. 植 生 図 Vegetationskarten

植物社会学的調査法によって類型化された植物群落を具体的に地図上に描いたのが植生図である。植生図には現存植生図、潜在自然植生図、原植生図などがあり、目的に応じた縮尺で図化される。現存植生図は現在みられる植物群落の広がりを図化したもので、土地利用形態、緑化状況などの評価、貴重植物群落のチェックなどに利用される。潜在自然植生図は現在、植生やその立地に加えられている人間の影響を一切停止した場合、その立地が終局的にどのような自然植生を支え得る潜在能力をもっているかという、理論的な自然植生を具体的に図化したものである。したがって、土地機能の総合的な評価が可能で、効率の良い土地利用計画、都市計画および再整備、みどりの環境創造などのための基礎図に利用できる。

海老名市では1984年度編纂の縮尺 1 : 2,500 の地形図をもとに縮尺 1 : 10,000 で、現存植生図と潜在自然植生図が描かれた。

1) 現存植生図 (1 : 10,000) Karte der realen Vegetation

現存植生図の作成は1983年夏より、植生調査と平行して行われた。野外でチェックされた現存植生の類型と広がり、さらに空中写真の判読により精度が高められた。空中写真の判読のあいまいな箇所は再度現地での照合が行なわれた。30の植生単位と、その他5の合計35の凡例で描かれている。

森 林 植 生 Wälder

(1) イノデータブノキ群集

Polysticho-Perseetum thunbergii (Legende 1)

(相観)

タブノキの優占する常緑広葉樹林。

(環境)

沖積低地や斜面下部の適潤な立地。

(分布)

河原口の宗珪寺、中新田の海源寺、八幡、本郷など。とくに南部の沖積低地に多い。まれ。

(2) イロハモミジ・ケヤキ群集, ムクノキ・エノキ群集

Aceri-Zelkovetum, Aphanantho-Celtidetum Sinensis

(Legende 2)

(相観)

ケヤキ, エノキ, ムクノキなどニレ科の優占する夏緑・常緑広葉樹林。

(環境)

イノダブノキ群集より湿潤な立地, あるいは崩壊性のある急斜面。

(分布)

上今泉2丁目, 大谷の観音堂などの段丘斜面にみられる。きわめてまれ。

(3) シラカシ群集

Quercetum myrsinaefoliae (Legende 3)

(相観)

シラカシの優占する常緑広葉樹林。

(環境)

火山灰土壌の発達した洪積台地。

(分布)

滝ノ本, 産川台, 市場の福寿院, 杉久保小学校裏などおもに北部。ややまれ。

(4) クヌギ・コナラ群集

Quercetum acutissimo-serratae (Legende 4)

(相観)

コナラ, イヌシデの優占する夏緑広葉樹二次林。

(環境)

火灰山土壌の厚い洪積台地上。15~20年ごとに伐採される。

(分布)

上今泉4丁目, 杉本, 滝ノ本など北部に規模の大きな植分がみられる。ややまれ。

(5) ミズキ群落他

Cornus controversa-Gesellschaft u. a. (Legende 5)

(相観)

ミズキ群落, クマノミズキ群落, クマワラビーイヌシデ群落がまとめられている。ミズキ, クマノミズキ, イヌシデの優占する夏緑広葉樹二次林。

(環境)

沖積低地や斜面下部の適潤な立地。15～20年ごとに伐採される。

(分布)

上今泉3丁目，大谷中学校周辺。下星谷など。普通。

(6) 常緑広葉樹植栽地

Gepflanzte Immergrüne Laubholzbestand (Legende 6)

(相観)

スダジイ，マテバシイなど常緑広葉樹が優占する。

(環境)

境界環境保全林。

(分布)

東名高速の海老名サービスエリア周辺。

(7) サクラ並木 (ソメイヨシノ) 他

Kirschen (*Prunus yedoensis*)-Allee u. a. (Legende 7)

(相観)

ソメイヨシノ，イチョウなど夏緑広葉樹の並木。

(環境)

街路樹として植栽。

(分布)

中河原の堤防沿い。国分寺台の並木。普通。

(8) スギ・ヒノキ植林

***Cryptomeria japonica*, *Chamaecyparis obtusa*-Forst** (Legende 8)

(相観)

スギ，ヒノキの植栽された常緑針葉樹林。

(環境)

排水の良い斜面。

(分布)

段丘斜面。滝ノ本，聖地，大之保，豊受神社，星谷など。普通。

(9) モウソウチク林

***Phyllostachys heterocycla* f. *pubescens*-Bestand** (Legende 9)

(相観)

植栽されたモウソウチク優占林。

(環境)

斜面下部の適潤な立地。

(分布)

上今泉，伊勢山，中原，下谷津など洪積台地上に普通。

低木林 *Gebüsche*

(10) クサギ—アカメガシワ群落他

Clerodendron trichotomum-Mallotus japonicus-Bestand (Logonde 10)

(相観)

アカメガシワ，クサギの優占する夏緑亜高木林。

(環境)

伐採跡地，林縁部に先駆的に発達している。

(分布)

洪積台地上に普通にみられるが植分は小さい。

(11) メダケ群集

Pleioblastetum simonii (Legende 11)

(相観)

メダケの叢生した低木林。

(環境)

ぼう軟で適潤な土壌。日あたりが良い。

(分布)

相模川沿い。谷津の小河川沿い。ややまれ。

(12) センニンソウ群集

Clematidetum terniflorae (Legende 12)

(相観)

つる植物の多い低木群落。

(環境)

林縁部の適潤な立地。

(分布)

洪積台地上に普通。

(13) タチャナギ群集

Salicetum subfragilis (Legende 13)

(相観)

タチャナギ, オノエヤナギ, カワヤナギの優占する低木林。

(環境)

流水辺の泥土上。しばしば冠水する。

(分布)

相模川流域。とくに南部に多い。

(14) 苗圃

Baumschule (Legende 14)

(相観)

キャラボク, クロマツ, マテバシイなどが植栽されている。

(環境)

畑土。

(分布)

本郷, 下星谷, 柳本など主に南部の洪積台地上。普通。

(15) 果樹園, 桑畑

Obstgarten, Morus-Garten (Legende 15)

(相観)

ブドウ, リンゴ, クリ, ウメ, クワなどが植栽されている。

(環境)

畑土。

(分布)

桑畑は北部の上今泉に多い。果樹園も洪積台地上に普通。

草 原 **Wiesen**

(16) アズマネザサーススキ群集他

Arundinario chino-Miscanthetum sinensis u. a. (Legende 16)

(相観)

アズマネザサ, ススキ, チガヤの優占する草原。

(環境)

比較的乾燥した日あたりのよい立地。

(分布)

市内に普通。

(17) シバ群落

Zoysia japonica-Gesellschaft (Legende 17)

(相観)

シバの優占する短茎な草原。

(立地)

日あたりが良く管理の施された立地。

(分布)

工場, グランドに普通。

(18) ユウガギク—ヨモギ群集

Kalimerido-Artemisietum principis u. a. (Legende 18)

(相観)

ヨモギ, カントウヨメナ, ユウガギクの優占する草原。

(環境)

日あたりのよい路傍。適潤な立地。

(分布)

市内に普通。

(19) カゼグサーオオバコ群集

Eragrostio ferrugineae-Plantaginetum asiaticae u. a. (Legende 19)

(相観)

カゼグサーの優占する短茎な草原。

(環境)

日あたりが良く, 踏圧の影響を受ける。

(分布)

市内のとくに田園地帯に普量。

(20) ナガハギンギン—ギンギン群集

Rumicetum crispo-japonici (Legende 20)

(相観)

ギンギン, ナガハギンギンなどギンギン属やネズミムギの優占する冬緑性の草原。

(環境)

河川敷の富養化した泥土上。

(分布)

相模川。小河川の土手。普通。

(21) ヨシ群落他

Phragmites australis-Gesellschaft u. a. (Legende 21)

(相観)

ヨシ、ガマの優占する高茎草原。

(環境)

停滞水をもつか、あるいはきわめて多湿な立地。

(分布)

相模川。水田放棄地。ややまれ。

(22) オギ群集

Miscanthetum sacchariflori (Legende 23)

(相観)

オギの優占する高茎草原。

(環境)

ヨシ群落よりは乾燥するが多湿な立地。

(分布)

相模川。南部に普通。

(23) ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落

Erigeron canadensis-*Erigeron sumatrensis*-Gesellschaft (Legende 23)

(相観)

ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギクの優占する越年生草原。

(環境)

造成や畑放棄されて1～2年経過した立地。

(分布)

市内に点在している。とくに新興住宅地に多い。普通。

(24) カラスビシャク—ニシキソウ群集

Pinellio ternatae-Euphorbietum pseudochamaesycis (Legende 24)

(相観)

優占種はない。小形植物からなる短期1年生草本植物群落。

(環境)

耕起，施肥，除草，刈り取りという集約的管理の行なわれる畑地。

(分布)

市内にきわめて普通で，とくに洪積台地上の田園地帯に多い。

(25) オヒシバ—アキメヒシバ群集

Eleusino indicae-Digitalietum violascentis (Legende 25)

(相観)

オヒシバ，アキメヒシバの散生する短茎な夏季1年生雑草群落。

(環境)

造成されてまもない立地や踏圧の頻繁なグラウンド。

(分布)

市内に普通。

(26) アキノエノコログサ—コセンダングサ群集他

Setario-Bidentetum pilosae u. a. (Legende 26)

(相観)

メヒシバ，アキノエノコログサ，ブタクサの優占する夏季1年生雑草群落。

(環境)

造成地，駐車場などオヒシバ—アキノヒシバ群集より土壌化が進み，踏圧も少ない立地。

(分布)

市内に普通。

(27) ノミノフスマ—ケキツネノボタン群集

Stellario-Ranunculetum cantoniensis (Legende 27)

(相観)

ゲンゲ，スズメノテッポウの優占する春季水田雑草群落。

(環境)

耕起まえの冬季から春季にかけて多湿な水田。

(分布)

沖積低地に広く分布する。

(28) ミゾソバ群集他

Polygonetum thunbergii u. a. (Legende 28)

(相観)

ミゾソバ、ジュズダマの優占するミゾソバ群集、ジュズダマ群落などがある。

(環境)

小河川、畦沿いの小川などの流水辺や比較的新しい水田放棄地。

(分布)

沖積低地の水田地帯にややまれにみられる。

(29) スズメノテッポウタガラシ群集

Alopecuro-Ranunculetum scelerati (Legende 29)

(相観)

タガラシの優占する1年生草本植物群落。

(環境)

流水辺の富栄養化した泥土上で多湿な立地。

(分布)

相模川。鳩川との合流付近にとくに多い。

(30) アゼガヤツリーカワラスガナ群集他

Cyperetum globoso-sanguinolenti u. a. (Legende 30)

(相観)

アゼナ、タマガヤツリなどの優占する夏季1年生雑草群落。他にクワイ群落。ヌマガヤツリ群落、ホウキギク群落がある。

(環境)

放棄されてまもない水田。多湿で踏圧により水がにじみでる。

(分布)

沖積低地の水田にややまれ。相模川沿いではヌマガヤツリ群落が相模小橋近くにみられる。

そ の 他 Sonstige Legende

(31) 緑の多い住宅地

Siedlungen mit standortsgemäßen Bäumen (Legende 31)

(相観)

タブノキ，シラカシ，ケヤキなど在来種の高木が宅地を覆っている。低木，草本植物も常緑植物を主に豊富である。

（環境）

農家，寺院，神社の集まった昔からの集落。一般に屋敷も大きい。

（分布）

沖積低地では相模川自然堤防後背地，洪積台地では段丘斜面に接した肩部に多い。

（32） 住宅地・工場・道路

Siedlungen, Fabriken, Straßen und vegetationslosen Flächen (Legende 32)

（相観）

建物の密集地や道路など植物群落が発達しない。

（環境）

戦後建てられた住宅，工場などが集中している。小型で敷地もせまい住宅が多い。

（分布）

水田，畑地を破壊し拡大を続けている。

（33） 造成地

Baustellen (Legende 33)

（相観）

無植生，無建造物。

（環境）

火山灰層などの母材が露出し，整地の進行している状態。

（分布）

相模川流域の三番河原から五番河原にかけた地区。洪積台地上では富谷などの新興住宅地区にみられる。

（34） 自然裸地

Von Natur aus vegetationslose Flächen (Legende 34)

（相観）

砂礫を母材とする無植生地。

（環境）

流水の破壊作用によって植生が発達しない。

（分布）

相模川の急流域。

(35) 開放水域

Offenes Wasser (Legende 35)

(相観)

流水域。

(環境)

常に水の流れがあり、植生が発達していない。

(分布)

相模川。

2) 潜在自然植生図 (1 : 10,000)

Karte der potentiellen natürlichen Vegetation

海老名市域は古くから主に田園地帯として開けてきたが、戦後は都心部の拡大の影響を受け、ベットタウン化、工場誘致と土地利用も複雑になった。今後も土地利用の細分化が進むと予想されるが、合理的な土地利用、都市計画を行うための基礎資料として潜在自然植生図の作成が行なわれた。潜在自然植生の判定には残存自然植生、自然度の高い代償植生の分布状態が基準となり、さらに土壌、地形などの環境要因も比較された。

森 林 植 生 Wälder

(1) ムクノキーエノキ群集

Aphanantho-Celtidetum Sinensis (Legende 1)

(環境)

湿潤な立地。台風などの影響で数年に1度冠水することもあるが、今日では護岸工事が徹底したため、洪水はみられない。イノデータブノキ群集域より多湿である。

(地形・地質)

沖積低地上の平坦地。

(主な代償植生)

ウリカワーコナギ群集, ミゾカクシーオオジシバリ群集, ユウガギクーヨモギ群集, ヨシ群落, ジュズダマ群落, ミゾソバ群集, ミズキ群落。クマノミズキ群落。

(土地利用)

水田, 宅地。

(2) イロハモミジーケヤキ群集

Aceri-Zelkovetum (Legende 2)

(環境)

排水性の良い湿潤な立地。

(地形・地質)

崩壊性のある急斜面で段丘斜面を指標している。土壌母材は火山灰土であるが、比較的固いち密な状態にある。

(主な代償植生)

オドリコソウ群落, チデミザサードクダミ群集, ヤブマオ群落, センニンソウ群集, ハコネウツギーオオバヤシャブシ群集, ミズキ群落。

(土地利用)

スギ・ヒノキ植林, モウソウチク林, 保安林, 風致林。

(3) イノデータブノキ群集

Polysticho-Perseetum thunbergii (Legende 3)

(環境)

適潤な立地。大水時でも冠水することは少ない。

(地形・地質)

沖積低地上の平坦地。土壌は深く団粒構造を呈している。

(主な代償植生)

ウリカワーコナギ群集, ミゾカクシーオオジシバリ群集, ユウガギクーヨモギ群集, カラムシ群落, チデミザサードクダミ群集, オヒシバーアキメヒシバ群集, カワラスゲーオオバコ群集, クマワラビーイヌシデ群落, クマノミズキ群落, ミズキ群落, メダケ群集。

(土地利用)

水田, 畑地, 宅地

(4) ヤブコウジースダジイ群集

Ardisio-Castanopsietum sieboldii (Legende 4)

(環境)

微気象が温和で日当たりが良く、比較的乾燥した立地。

(地形・地質)

ローム土からなる段丘肩部。尾根状地形部。

(主な代償植生)

カラスビシャクーニシキソウ群集, カゼクサーオオバコ群集, アキノエノコログサーコセンダングサ群集, センニンソウ群集, ハコネウツギーオオバヤシャブシ群集。

(土地利用)

耕作地, 宅地。

(5) シラカシ群集, 典型亜群集

Quercetum myrsinaefoliae, *Typische Subass.* (Legende 5)

(環境)

排水の良い適潤からやや乾燥した立地。

(地形・地質)

ローム土の厚く堆積した洪積台地上。

(主な代償植生)

カラスビシャク—ニシキソウ群集, オヒシバ—アキメヒシバ群集, カゼクサーオオバコ群集, ススキ群落, アキノエノコログサ—コセンダングサ群集, クサギ—アカメガシワ群落, クヌギ—コナラ群集。

(土地利用)

耕作畑, 桑畑, 果樹園, スギ・ヒノキ植林, 宅地。

(6) シラカシ群集, ケヤキ亜群集

Quercetum myrsinaefoliae, *Subass. von Zelkova serrata*

(Legende 6)

(環境)

排水の良い湿潤な立地。

(地形・地質)

ローム土の厚く堆積した斜面下部。洪積台地上の小河川によってぎざまれた斜面。

(主な代償植生)

カラスビシャク—ニシキソウ群集, チヂミザサ—ドクダミ群集, カラムシ群落, オドリコソウ群落, ユウガギク—ヨモギ群集, ススキ群落, センニンソウ群集, スギ・ヒノキ植林, モウソウチク林, クヌギ—コナラ群集。

(土地利用)

耕作畑, 果樹園, 苗圃, 植林, 宅地。

(7) オニスゲーハンノキ群集

Carici dickinsii-Alnetum japonicae (Legende 7)

(環境)

踏圧により水がにじみでるような多湿地で, 小川をはさんで帯状に発達している。

(地形・地質)

洪積台地上の小河川沿い。土壌はグライ化している。

(主な代償植生)



Fig. 33 オニスゲーハンノキ群集の潜在自然植生域は過湿となるため、盛土により造成が行なわれている（本郷）。

Man braucht viel Schüttmaterial, wenn man im *Carici dickinsii*-*Alnetum japonicae*-Gebiet bauen will (Hongo).

ウリカワーコナギ群集，ミゾカクシーオオジシバリ群集，ミゾソバ群集，ヨシ群落。

（土地利用）

水田。

（８） コゴメヤナギ群集，タチヤナギ群集

Salicetum serissaefoliae, *Salicetum subfragilis* (Legende 8)

（環境）

河川沿いの氾濫原で、洪水時に冠水する。

（地形・地質）

河川敷の平坦地で、洪水時に肥沃な土壌が上流からもたらされる。

（主な代償植生）

ヨシ群落，オギ群集，スズメノテッポウタガラシ群集，ナガハギシギシーギシギシ群集，アキノエノコログサーコセンダングサ群集，クコ植分，テリハノイバラ植分。

（土地利用）

耕作畑，グラウンド。

河 辺 草 原 Ufer-Wiesen

(9) マルバヤハズソウーカワラノギク群集他

Kummerovio-Asteretum kantoensis u. a. (Legende 9)

(環境)

増水時に急流によってあらわれる。日当たりが良く平常時は乾燥にみまわれる。

(地形・地質)

河川敷の高敷。粘質土を多少混在する砂礫質土壌。

(主な代償植生)

なし。

(土地利用)

なし。

(10) ヨシ群落, ツルヨシ群集

Phragmites australis-Gesellschaft, *Phragmitetum japonicum* (Legende 10)

(環境)

流水辺で頻繁に冠水する。

(地形・地質)

河川敷。グライ化した泥質, 礫質土壌。

(主な代償植生)

スズメノテッポウタガラシ群集。ヌマガヤツリ群落。ナガハギンギンーギンギン群集。

(土地利用)

なし。

(11) スズメノテッポウタガラシ群集他

Alopecuro-Ranunculetum scelerati u. a. (Legende 11)

(環境)

流水辺で頻繁に冠水する状態にある。

(地形・地質)

河川沿い。洪水時に肥沃な泥土が上流から運ばれ, 堆積している。

(主な代償植生)

なし。

(土地利用)

なし。

そ の 他 Sonstige Legende

(12) 自然裸地

Von Natur aus vegetationslose Flächen (Legende 12)

(環境)

頻繁に冠水する急流部で泥土の堆積は少なく，平常は強い乾燥下におかれる。

(地形・地質)

河川敷。礫。

(土地利用)

なし。

(13) 開放水域

Offenes Wasser (Legende 13)

(環境)

流水域。

(地形・地質)

礫からなる河川敷。

(土地利用)

なし。